

ナリ)

第四節 上載ノ電報ハ局報ノ部ニ列シ [ST] (課金局報)ノ指定ヲ付スヘシ

第五節 初發ノ電報照校電報ニシテ校正ノ後其電信ニ誤謬アリシコト

判然セハ本條ニ依リテ收メタル料金ハ之ヲ還付スヘシ但初發電報ニ

對照シテ正確ナル語及誤謬ノ語ト相雜ルトキハ其尋問料及返信料ノ

内正確ノ語ヲ反復シタル語數ニ相當スル料金ハ之ヲ還付セサルモノ

トス
第六節 照校ニ非サル電報ニ關シ尋問及返信ノ料金ヲ還付スルト否テ

サルトハ問信ヲ發送スル電信本局ノ取捨ニ任スモノトス

第七節 校正ヲ要セシ初發電報ノ料金ハ之ヲ還付セサルモノトス

第八節 校正ヲ請ヒタル語辭ニシテ最初ノ發信局ニアル原書ニ疑惑ス

可キ字體ヲ以テ書シタルモノアルハ其校正電報ヲ送りシ後直ニ局

報ヲ以テ其事由及料金ノ直還付ヲ差止(追テ調査確定ス)ム可キ旨着

信局へ報知スヘシ

第九節 尋問及返信ノ料金ハ全ク之ヲ徵收スル電信本局ノ所得ト爲シ

萬國計算ニ算入スルヲ要セス

目第二十五條

第一節 目第四十二條ニ基キ發信人ヨリ迂回ノ線路ヲ指示スルトキハ

目第十八條ニ隨ヒ第十九條及第二十條ニ掲ケタル稅表ニ準シ定規ノ

基本稅率ヲ以テ計算シタル中繼料金ノ全額ヲ納メシムヘシ

第二節 發信人ニテ記シタル線路ノ指示ハ局内心得トシテ信紙額表中

ニテ之ヲ傳送スヘシ但料金ヲ課セス

第三節 同盟局電信本局ハ海底線ノ不通ニヨリテ料金ノ増減ヲ生セサ

ルヤウ務ヲ注意スヘシ

第五篇

語數算法

目第二十六條

第一節 發信人ノ賴信紙中ニ記載シタルモノハ次條ノ第九節及第二十

五條第二節ニ掲ケタルモノヲ除クノ外總テ有料語トシテ計算スヘ

シ

第二節 取扱上便利ノ爲メ局内ニテ添加シタル語辭ニ番號句點ニハ料

金ヲ課セス

第三節 受信人ニ配達スル送達紙ニハ無料ニテ其發信局名及依托ノ月

日時分ヲ記載スルモノトス

第四節 發信人ハ電報本文中ニ月日等ノ全部又ハ一部分ヲ記載スルヲ得ヘシ此等ハ皆有料語數ニ算入ス

目第二十七條

第一節 莫爾斯假字ハ十五字ヲ以テ一語ノ極ト定メ之ニ超エタルモノハ復々十五字ニ臻ルマテ一語ニ計算ス

第二節 歐羅巴外ノ方法ヲ用フル通信ハ十字ヲ以テ一語ノ極ト定ム

第三節 歐羅巴内ノ方法及歐羅巴外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テモ萬國局名録ニ登載スルカ如キ固有名詞ハ名處中ニ記スル着信局名及着信國名ニ限リ其所用ノ字數ニ拘ハラス各一語ニ計算ス

第四節 連續點(-)ヲ以テ繋キタル語ハ其每分語ヲ一語ニ計算ス

第五節 畧符ヲ以テ分チタル語モ亦其每語ヲ一語ニ計算ス

第六節 國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省畧シタルモノハ之ヲ許サス然レモ府名、人名、地名、大街名、小街名、船名等並ニ文字ヲ以テ記載セシ數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明スル爲メニ用非タル語數ニ依リテ計算ス

第七節 數字ニテ記シタルモノハ五個マテハ一語ニ計算シ之ニ超エタルモノハ又三語トス文字ノ聯集シタルモノヲ算スルニモ亦此例ヲ用

フヘシ

歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニハ數字或ハ文字ノ聯集ハ其聯集毎ニ之ヲ三除シ其商ヲ以テ語數幾個ト定メ殘餘ノモノハ又一語トナシテ計算ス

第八節 文字又ハ數字ニテモ孤立シタルモノハ各一語ニ計算ス

字下線ニモ又此例ヲ用フヘシ

第九節 句讀諸點、連續點(-)畧符()、轉倒句讀()、括弧()、新章()ハ語數ニ計算セズ

但歐羅巴外ノ線路ニテハ必スシモ此等ノ記號ヲ送ルヲ要セス

第十節 數字中ニ用フル分數點、讀點及ヒ歸除線ハ其一個ヲ數字一字ト見テ計算ス

第十一節 順序數ヲ作ル爲メニ數字ニ加ヘタル文字ハ各一數字ト見テ計算ス

第十二節 發信局ノ語數計算ハ萬國間ノ傳送並ニ計算上ニ於テモ之ヲ確實ノモノト認定スヘシ然レモ着信局ニ於テハ其國語ヲ以テ記シタル電報ヲ受領シタルモ國語ノ用法ニ反シタル語辭ノ聯綴ヲ含ムモノアラハ其不足ノ料金額ヲ受信人ヨリ徵收シ以テ着信局ニ所有ト爲ス

コトヲ得ヘシ此ノ如ク施行スルニ當リテハ補足料金ヲ納メタル後ニ
アラサレハ電報ヲ受信人ニ交付セス若シ受信人ニ於テ右支辨方ヲ拒
ミタルトキハ局報ヲ以テ其旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

目第二十八條

語數計算ノ譯解トシテ左ニ凡例ヲ舉ク但前條第三節ニ掲クルモノハ
之ヲ除ク

字數相當

歐羅巴 歐羅巴
内ノ方法 外ノ方法

Responsabilité	(十四文字)	一語	二語
Kriegsgeschichten	(十五文字)	一語	二語
Inconstitutionnalité	(二十文字)	二語	二語
A-t-il		三語	三語
aujourd'hui	(連續點ナシ記載セシキ)	一語	一語
O'est-à-dire		四語	四語
Aix-la-Chapelle		三語	三語
Aix-la-Chapelle	(十二文字)	一語	二語
New-York		一語	一語
New-York		二語	二語

Frankfurt am Main		三語	二語
Frankfurt a/M		二語	二語
Frankfurtmain	(十二文字)	一語	二語
Rio de Janeiro		三語	三語
Riodejaneiro	(十二文字)	一語	二語
New South Wales		三語	三語
Newsouthwales	(十二文字)	一語	二語
Van de Brande		三語	三語
Vandebrande	(十一文字)	一語	二語
Du Bois		二語	二語
Duhois		一語	一語
Belgrave Square		二語	二語
Belgravesquare	(十四文字)	二語	二語
Hyde Park		二語	二語
Hydepark		二語	二語
Hydepark Square		二語	二語
Hydeparkequare	(十四文字)	二語	二語

St. James Street	三語	三語
Saintjames Street	二語	二語
Portland Place	二語	二語
Rue de la paix	四語	四語
Rue delapaix	二語	二語
Princeofwales	一語	二語
44 ¹ / ₂	(船名)	二語
444 ¹ / ₂	(數字記號併セテ五個)	一語
444,5	(數字記號併セテ六個)	二語
444,55	(數字記號併セテ五個)	一語
444,55	(數字記號併セテ六個)	二語
10 francs:50 centimes	(數字記號併セテ六個)	三語
10 fr. 50 c.	(數字記號併セテ六個)	三語
10 fr. 50	(數字記號併セテ六個)	三語
fr. 10,50	(數字記號併セテ六個)	三語
11 h. 30	(數字記號併セテ六個)	三語
11,30	(數字記號併セテ六個)	一語
Le 17 ^{me}	(數字記號併セテ六個)	二語

Le 1529 ^{me}	三語	三語
44/2	一語	二語
44/	一語	一語
2%	一語	二語
2 p.‰	三語	三語
huit/ ₁₀	二語	二語
5/douzièmes	二語	二語
5 bis	二語	二語
5 ter	二語	二語
54-58	二語	二語
30 exposant a *	三語	三語
15 multiplié par 6 *	四語	四語

*電信機械ニ於テ「80」及「30×6」等(乗算法ノ記號)ノ文辭ヲ顯ハスヲ得
 故ニ發信人ハ其代リ「80 exposant a」及「15 multiplié par 6」ト記ス可シ

Deux cent trente quatre	四語	四語
Deuxcenttrente quatre	(二十文字)	二語
Two hundred and thirty four	五語	五語
Two hundred and thirty four	(二十三文字)	二語

E.	一語	一語
E. M.	二語	二語
Emvthf	(六文字)	二語 二語
fmrlz	(五文字)	一語 二語
Ch23	(商業符號)	二語 二語
ADVGMV	(同上)	二語 二語
AP	(同上)	一語 二語
M	(同上)	二語 二語
8	(同上)	二語 二語
C. H. F. 45	(同上)	四語 四語
L' affair est urgente;	(七語並字下線二所)	九語 九語
partir sans retard	*	

*字下線ハ之レヲ加フ可キ語又ハ文言ノ前後ニ送ルヘシ

目第二十九條

隱語又ハ秘辭ノ雜リタル電報中其普通語ハ第二十七條第一節乃至第五節ノ例ニ從テ之ヲ計算シ其合格ノ隱語ハ目第八條第三節ニ定メタル規則ニ從テ計算シ其數字或ハ文字ノ聯集シタルモノ及普通語若ク

ハ隱語ニ用フルコトヲ許サ、ル語辭名詞若クハ文字ノ集合シタルモノハ第二十七條第七節乃至第十節ノ例ニ從テ之ヲ計算スヘシ

第六篇

料金收入

目第三十條

- 第一節 左ニ記載シタル事件ヲ除クノ外ハ凡テ通信料ヲ前納スヘシ
- 一 追尾電報増料金(第五十六條第六節)
 - 一 別使配達賃(第六十條第一節)
 - 一 號標電報ノ料金(第六十二條第六節)
- 但右ハ其着信局ニ於テ收入スヘキモノトス
- 第二節 萬國電報ノ發信人ハ其納メタル料金ヲ示ス受領證ヲ請求スルノ權アリ
- 第三節 發信局ニ於テハ右ノ受領證ヲ交付スル爲メ其登記手数料トシテ二拾五先士以內ノ金額ヲ課スルノ權アリ
- 第四節 着信局ニ於テ料金ヲ收入スヘキ電報ハ其受信人ヨリ相當ノ金額ヲ納ムルマテハ之ヲ交付スヘカラス
- 第五節 若シ又着信局ニテ收入スヘキ料金アリテ之ヲ徵收スルコト能ハ

サルハ全ク該局ノ損失トナヘシ然レモ條約書第十七條ニ基キ特別ノ條約ヲ結ビシ國及第五十六條追尾電報第六十二條號標電報ノ傳送ノ如キ別ニ適例アルモノハ此限ニアラス

第六節 然レモ其着信局ニ於テ徵收スヘキ料金ヲ受信人ヨリ納メサルハ之ヲ發信人ヨリ補償セシムル爲メ各電信本局ニ於テハ百方盡力スヘシ而シテ之ヲ追收シタルトキハ其本局ニテ他ノ關涉アル本局ノ收入計算中ニ組込ムヘシ

目第三十一條

第一節 誤收シタル不足金又ハ受信人ニテ拒ミ若クハ同人ヲ尋不得サル爲メ徵收スル不能ハサル料金雜費等ハ發信人ヲシテ之ヲ償却セシムヘシ

第二節 誤收シタル過餘ノ料金ハ之ヲ還付スヘシ然レモ發信人ノ貼用シタル電信切手ノ過餘ハ發信人ヨリ請求セサレハ之ヲ還付セス

第七篇

六電報傳送

a 字號

目第三十二條

莫爾斯機及露士機ノ通信ニ用フル字號ハ左ノ如シ

A 莫爾斯印字機字號

字號ノ長短及間隔

第一 長點ハ短點三個ヲ合セシニ齊シ

第二 一字ヲ作ル點々ノ間隔ハ一短點ニ齊シ

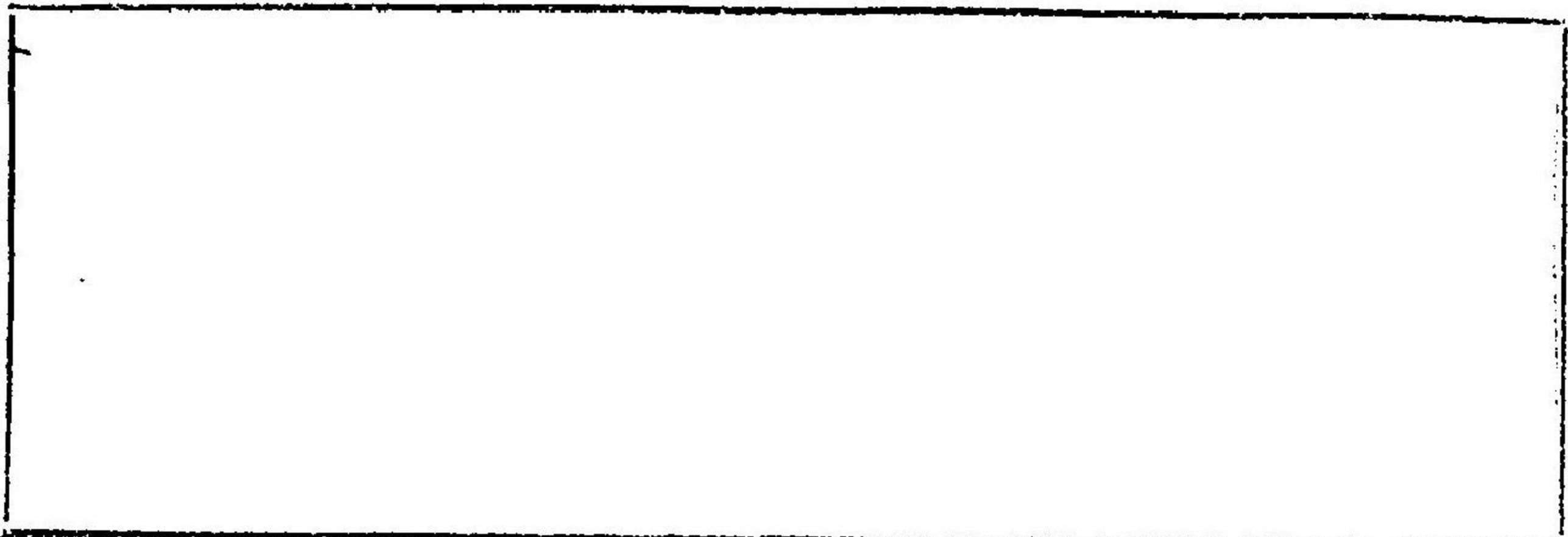
第三 二字ノ間隔ハ三短點ニ齊シ

第四 二語ノ間隔ハ五短點ニ齊シ

文字

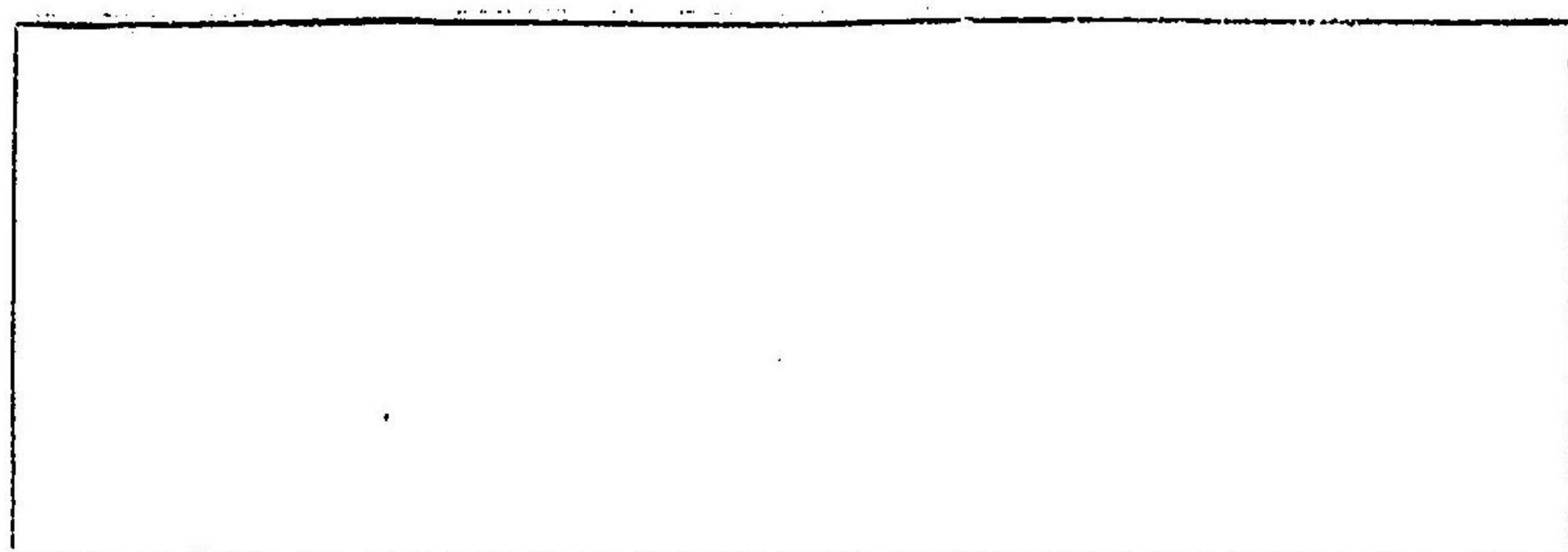
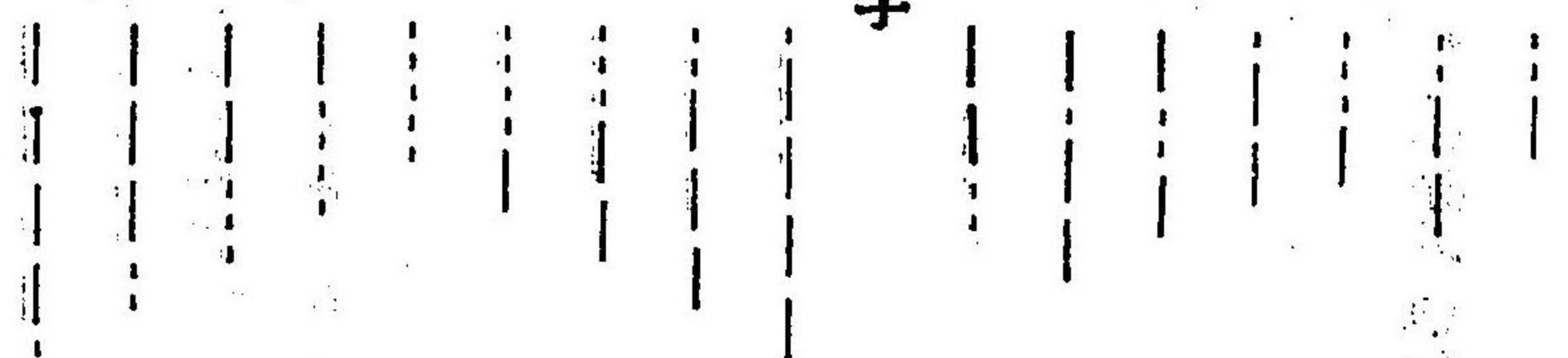
A A A
A 又ハ A

E E D CH C B

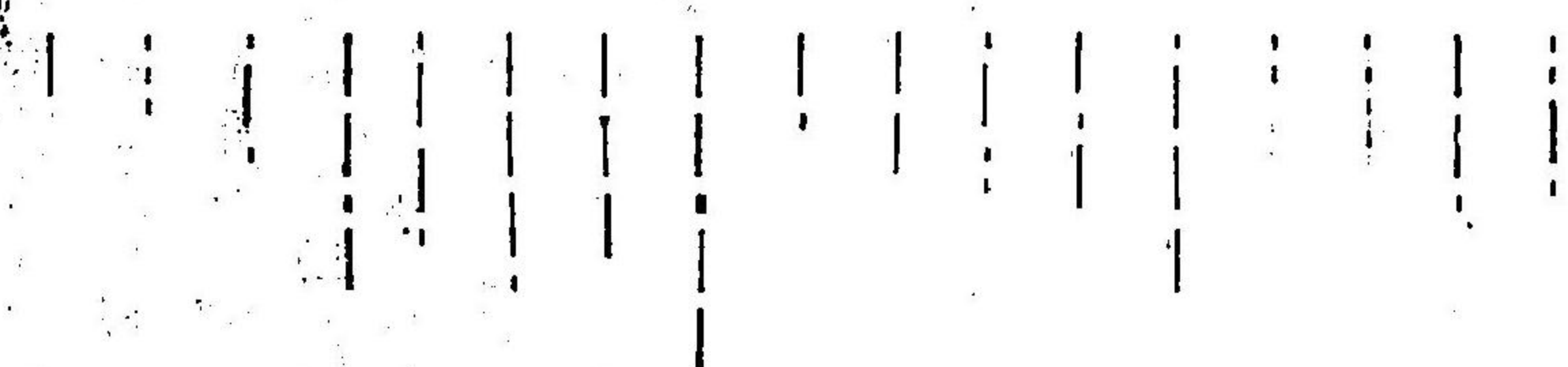


9 8 7 6 5 4 3 2 1 Z Y X W V Ü U

數字



T S R Q P Ö O Ñ N M L K J I H G F



局報
 至急私報
 通常私報
 課金局報
 返信料前納
 至急返信料前納
 照校電報
 反復電報
 受信報知
 追尾電報
 郵稅前納
 書留郵便
 別使賃前納
 騎使賃前納
 無絨配達
 呼出
 承諾
 誤認

各傳送ノ
始=送ル

音信終尾
 中繼依頼
 可待
 受信完了

B 露士現書機字號
 文字

N.	A.
Q.	B.
P.	C.
Q.	D.
R.	E.
S.	F.
T.	G.
U.	H.
V.	I.
W.	J.
X.	K.
Y.	L.
Z.	M.

句讀點其他記號

終點
 讀
 小讀
 重點
 問標
 感符

() [] [] [] [] []

略符

十字符

連續點

強音E

分數母子間歸除線

二重連續點

括弧左邊

括弧右邊

助語

轉倒句讀

一 每數字ノ距離ハ二空罅ヲ以テ之ヲ示シ又化小數ニ非サル分數ノ數

字ヲ傳送或ハ照校スルキハ其整數ト分數トノ間ハ一空罅ヲ以テ之

ヲ離隔スヘシ例ヘハ $(1\frac{3}{4})$ ハ是ニシテ $(\frac{13}{4})$ ハ非ナルカ如シ

一 字下線ヲ引キタル語辭又ハ文章ナレハ其前後ニ連續點二個ツ、例

ヘハ——急速——トシテ之ヲ送り受信技手ハ之ヲ翻書シテ急

速トナスヘシ

“ &) (= / E [-][+][?]

符號

官報

局報

至急私報

通常私報

課金局報

返信料前納

至急返信料前納

照校電報

受信報知

追尾電報

郵稅前納

書留郵便

別使賃前納

購使賃前納

EP. XP. PR. PP. FS. CR. TC. RPD. RP. ST. P. D. A. S.

無誤配達

- 一 其局ヲ呼ビ又ハ之ニ答フルニハ空罅ヲナシテN字ヲ數回送ルヘシ
 - 一 受送兩機ノ同軌運轉ヲ調整スヘキ爲ニ同記號ヲ累々反復セント欲セハ空罅ヲナシテINTノ字ヲ數回送ルヘシ
 - 一 電綴ノ調整ヲ便宜ニセント欲スルハ空罅ヲナシテINTノ字ヲ數回送ルヘシ
 - 一 「可待」ト示スニハATTヲ送り且大約其待ツヘキ時間ヲ報スヘシ
 - 一 誤謬ヲ示スニハ句點ノ記號ナシニN字ヲ二三回送ルヘシ
 - 一 傳送ヲ遮止スルニハ何文字ニテモ二三個ヲ送ルヘシ但其字ト字トノ間隔ヲ廣クスヘシ
 - 一 E字ノ強音ノ記號ハ(S)ノ有無ニ拘ラス(其文意ニ因リ受信技手ニテ墨筆又ハ鉛筆ヲ以テ打號スヘシ)例ヘハ(Achete, achete)ノ如シ然ルトキハ受信局ノ注意ヲ要スル爲メ送信技手ニテ電報ノ終尾ニ再々其語ヲ送り而シテ強音ノE字ハ其前後ニ一空罅ヲ以テ離隔スヘシ
例ヘハ(Achete, achete)ノ如シ
 - 一 A Ö Üノ代リニハAE OE UEヲ送ルヘシ
- b 傳送順序

目第三十三條

第一節 電報ノ傳送ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

第一 官報

第二 局報

第三 至急私報

第四 通常私報

第二節 官報又ハ局報ノ符號ヲ表シタル電報ヲ萬國電線ニテ受信シタル局ハ敢テ其符號ヲ變更スルコトヲ得ズ

第三節 取扱上ノ誤謬改正等ニ關シ各局ヨリ發送スル電報ハ局報トシテ萬國電線上ヲ經過セシムヘシ

目第三十四條

第一節 既ニ傳送中ノ電報ハ上等ノ電報ニ讓ラス之ヲ送テスヘシ但最大緊要ノ事件ニ關スルモノアルトキハ此限ニアラス

第二節 同等ノ電報ナレハ発信局ニ於テハ其受托ノ前後ニ依リ中繼局ニ於テハ其受信ノ順序ニ從ヒ傳送スヘシ

第三節 中繼局ニ於テ中繼電報ト其地方電報トチ一線路ニテ傳送スルハ區別ナシ重積シ其受托及受信ノ順序ニ從ヒテ傳送スヘシ

第四節 直接ノ兩局間ニ於テハ同等ノ電報ヲ交番ニ送受スヘシ
 第五節 然リト雖モ通信ノ繁盛ナル地方若クハ別ニ數個ノ機器ヲ備ヒタル線路ハ傳送ノ迅速ヲ主トスルカ爲メ前節及第三十二條第一節ニ依ラサルモ亦可ナリ

目第三十五條

第一節 莫爾斯機ニ於テハ官報局報至急私報ノ順序ヲ正シテ互ニ之ヲ送受シ敢テ一列輪番ノ如クスヘカラス
 第二節 露士機ニ於テハ諸電報ヲ一列ツ、ニ編成シテ輪番ニ之ヲ送受スヘシ
 送受兩局ノ注長ハ電報ノ種類ヲ論セス一列ノ通數ヲ定ムヘシ而シテ此通數ヲ定ムルニハ其電報文ノ長短ト取扱上ノ不意ノ事件アラソクハ酌量シテ編成スヘシ然レモ一列ヲ編成スルニハ十通ニ超ユヘカラス一列信ヲ以テ一傳送ト爲シ最大緊急ノ飛報アルニ非サレハ決シテ之ヲ遮止スヘカラス
 二百語以上ノ電報ハ一通ヲ以テ一列ト看做スヲ例規トス
 通信繁盛且緊要ナル線上ノ莫爾斯機ニテモ亦此一列傳送ノ法ヲ用フルヲ得但此機器ニテハ一列五通ニ超ユヘカラス且一通百語以上ノ電

報ナレハ之ヲ二列ト看做スヘシ

第三節 送信局ニテ既ニ一列信ヲ送了セシ後直ニ又順チ論エテ送ルヘキ官報局報若クハ至急私報アリテ其受信局ヨリハ未タ次番ノ列信ヲ送り始メサル前ナレハ更ニ一列信ヲ續送スルノ權アリ

第四節 莫爾斯機ニテハ一通露士機ニテハ一列信ヲ傳送セシ後ニ其受信局ヨリ送ルヘキ電報アラハ交代シテ之ヲ傳送スヘク若シ之レナクハ送信局ニテ次番ノ電報ヲ續送スヘシ若シ又兩國共ニ傳送スヘキ電報ナキハ相互ニ「無」(〇即チ——)ノ符號ヲ送ルヘシ

送受方法

目第三十六條

第一節 凡テ兩局間ノ通信ニハ始ニ「呼出」ノ符號或ハ其呼フヘキ局ノ符號ヲ送ルヘシ
 第二節 被呼局ハ直ニ我局名ヲ符號ニテ答フヘシ但受信スルコト能ハサルハ「可待」ノ符號ト其大約待ツヘキ時分ノ數字トヲ併送スヘシ若シ其時間十分以上ニ及ハ、其事由ヲ報知スヘシ
 第三節 被呼局ニ於テハ送來ノ電報ノ何處ニ達スルモノタルヲ論セス一ツモ之ヲ拒却スルノ權ナシ然レモ其誤謬アルコト判然タルハ受信

局ヨリ直ニ局報ヲ以テ子細ニ發信局ニ報知シテ之ヲ改正セシムヘシ
第四節 局内指示ノ不規則アリト雖決シテ其電報ヲ拒却或ハ遅延セ
シムヘカラス必ス之ヲ受信シ置キ而シテ時宜ニヨリテハ第六十六條
ニ基キ局報ヲ以テ發信局ヘ報知シテ其改正ヲ請求スヘシ

目第三十七條

第一節 被呼局ヨリ唯其局名ノ符號ヲ以テ答ルノミニテ別ニ他ノ符號
ヲ報セスンハ直ニ原呼局ヨリ信紙類表中ニ記入シタル局内指示ヲ左
ノ順序ニ依リテ傳送スヘシ

a 電報ノ種類ヲ報ス(即チ官報ナレハ S 字局報ナレハ A 字至急私
報ナレハ D 字ヲ送ルナ云フ)

b 着信局ノ名

若シ電信局之レナキ地方ヘ送ルヘキ電報ナレハ類表中ニ其地
名ヲ記入セス然レハ郵便又ハ脚夫等ニテ此電報ヲ配達セシム
ル爲メ其着局ノ名ヲ記入スヘシ

c 發信局ノ名但局名ノ前ニ(De)「從」ナル語ヲ送ルヘシ例ヘハ(Paris
de Bruxelles) 巴里斯 從 貌爾遮耳ノ如シ

左ノ場合ニ於テハ發信局名ニ加フル
ニ其國名又ハ方位等ヲ以テス可シ

第一若シ他ニ同名ノ局アルハ
第二其局ノ開業ヲ猶未タ萬國事務局ヘ報告セサルハ

d 號數
e 語數

秘辭電報ナレハ左ノ如クスヘシ

第一 有料語ノ全數

第二 普通語ノ全數

第三 時宜ニ依リテハ數字又ハ文字ノ聯集數

f 電報依托ノ日時(數字二個ヲ以テ月日時分ヲ示シ)且午前(AM)若
シハ午後(PM)ヲモ併送スヘシ

莫爾斯機ヲ以テ電報ヲ傳送スルニ午前(am)午後(pm)月日ノ判
然タルハ此報告ヲ送ラサルモ亦可ナリ

器士機ニテ電報ヲ傳送スルハ月日ヲ表スルニ分數體ヲ以テシ
即チ分子ヲ日附トシ分母ヲ月附トス例ヘハ(二十五日)ノ

如シ

g 線路ノ指示(但發信人ニテ其信紙中ニ之ヲ記載セシキニ限ル)即
第二十五條第一節並第
四十二條第五節キアリ

h 發信人ニ於テ有料語數中ニ記入スルニ及ハサル指示即チ二重電報第四十四條第七節(徵收ス可キ料金(第五十六條第八節)宛名ノ數(第五十八條第三節)號標電報(第六十二條第五節及六節))

b d f ノ文字ヲ以テ示シタル件ハ歐羅巴外ノ線上ニ於テ之ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

第二節 前節ニ揭示シタル額表ヲ送リシ後ハ括弧ヲ以テ發信人ノ指定(第十條)ヲ圍ミテ之ヲ送リ而シテ受信人ノ名處電報ノ本文發信人ノ氏名ヲ逐次傳送スヘシ

第三節 莫爾斯機ヲ以テ傳送スル電報ニハ其額表名處本文記名ノ段落毎ニ(「」)ノ記號ヲ以テ區畫シ全文傳送ノ後音信終尾(「」)ノ符號ヲ送ルヘシ

第四節 露士機ヲ以テ傳送スル電報ニハ其額表名處本文記名ノ段落毎ニ二重連續點(「」)ヲ以テ區畫シ全文ノ終リニハ十字符ノ(「」)ヲ送ルヘシ

第五節 符號ヲ示スニハ莫爾斯機ナレハ其前後ニ「」ヲ送リ露士機ナレハ其前後ニ「」ヲ送ルヘシ

第六節 送信枝手ニ於テ送信中自ラ誤認セシコトヲ覺知セハ直ニ「誤認」ノ符號ヲ送リ而シテ既ニ正シク送リタル文章ノ末語ヨリ反復シテ其以下ノ文章ヲ正シク傳送スヘシ

第七節 受信枝手ニテ受信中疑ハシキ語ト認ムルハ是亦「誤認」ノ符號ヲ送リテ送信ヲ遮止シ而シテ既ニ曉解受信シタル文章ノ末語ヲ返送シ且問標ヲ送ルヘシ然ルハ送信枝手ニ於テハ務メテ字號ヲ分明ニシテ其末語以下ノ文章ヲ續送スヘシ

第八節 互ニ關係スル本局ニ於テ約定セシモノヲ除クノ外ハ傳送ノ際何等ノ事項アリト雖モ其語辭ヲ畧送シ或ハ文體ヲ變更スルコトヲ嚴禁ス凡テ電報ヲ傳送スルニハ發信人ノ信紙ニ據リ其記載シタル如ク傳送スヘシ

d 照較受信 局用復信

目第三十八條 電報ノ傳送ヲ終リタルトキハ受信枝手ニ於テハ直ニ一信報一列信トモ各其信紙中ノ現語數ト前ニ額表ニ示シタル語數ト差違ナキヤ否ヲ照較シ而後左ノ書式ニ倣ヒ「受信完了」ヲ報テ送ルヘシ

R..... (受領シタル電報ノ通數及一列信ノ初番號並ニ最終番號)例

〜ハR 拾通 百七十五(初番號) 九百八十(最終番號)

目第三十九條

第一節 若シ語數ニ差違アリテ受信技手ヨリ之ヲ報セハ送信技手ハ之ヲ照査シ前ノ額表中ノ語數ニ誤アラハ語字ノ實數ヲ示シ「是也」ト答フヘシ例ヘハ「二八是也」ト云フカ如シ然ラサレハ信紙中何レニ落語アルヤヲ追査スル爲メニ每語ノ首字ヲ反復シ其落語ヲ搜知シタル後之ヲ記入スヘシ

第二節 傳送中ノ誤謬ニ非スシテ語數ニ差違アルコトヲ認ムルキハ單ニ着信局ヨリ發信局ヘ照會シテ其語數ヲ校正スルヲ得ヘシ若シ兩局同意ニ至ラサルキハ發信局ニ於テ算定セシ語數ヲ以テ真正トナスヘシ

目第四十條

第一節 通信技手ハ自己ノ責任ヲ擔保スル爲メニ電報ノ全文或ハ一部分ヲ受信方ヨリ反復スルカ又ハ送信方ヨリ其反復ヲ請求スヘシ但莫爾斯機ニ於テハ受信方ニテ一通ノ終リニ之ヲ反復シ露士機ニ於テハ送信方ニテ一列信ノ終リニ之ヲ反復スヘシ
莫爾斯機ノ送信方ヨリ誤謬ヲ校正シ來ラハ受信方ハ其語辭或ハ數字ヲ反復スヘシ若シ受信方ニテ此第二ノ反復ヲ忘テハ送信方ヨリ之ヲ

促スヘシ

秘辭(數字或ハ文字)

ナ以テ書シタル官報ハ受信局ヨリ其全文ヲ反復スヘシ但其反復ヲナスハ照校電報ニ於ケルカ如シ

第二節 整數ニ分數ヲ添ヘタルモノ又ハ二字以上ノ分子ヲ有スル分數ヲ反復スルキハ其混淆ヲ防ク爲メ分子ノ數字ハ之ヲ語辭ニ翻譯シテ送ルヘシ例ヘハ $\frac{1}{10}$ (一ト十六分ノ一) $\frac{1}{16}$ (十六分ノ十一) ト區別スル爲メ $\frac{1}{10}$ (一ト十六分ノ一) ト作シ $\frac{1}{16}$ (四分ノ十三) $\frac{1}{16}$ (一ト四分ノ三) ト區別スル爲メ $\frac{1}{16}$ (五分ノ四) ト作スカ如シ

第三節 如何ナル口實アリトモ此反復ハ決シテ遅延又ハ遮止スヘカラス其電報ニ誤謬ナキヲ確知セハ受信局ヨリ送信局ヘ「受信完了」ノ符號ヲ送ルヘシ但一列信ニハ其受信ノ通數ヲ併送スヘシ

目第四十一條

第一節 已ニ傳送シタル一列信中ニ若シ校正ヲ要スヘキモノアラハ局報ヲ以テ着信局ニ通知シテ之ヲ校正スヘシ其局報ニハ受信人ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

第二節 已ニ傳送シタル一列信ニ關シテ不審ノ件ヲ請問スルキモ亦局報ヲ以テスヘシ

第三節 障礙若シハ其他種々ノ事故アリテ反復ノ電報ヲ受ルコト能ハス
ト雖モ其故ヲ以テ電報ヲ名處へ送達スルコトヲ遲滯スルハカラス但該處
アラハ再ヒ其改正シタルモノヲ送達スヘシ

○ 線路指示

目第四十三條

第一節 發信人ヨリ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セサルキ其線ニ又路
アル電信本局ニ於テハ其傳送ノ沿路ヲ判定スヘシ

第二節 然リト雖モ發信人ヨリ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セハ各電
信本局ニ於テハ皆其指示ニ從ハサルヲ得ス但指示シタル線路ハ其不
通ナキトキ若クハ非常ニ遲延セサルキニ限ルモノトス故ニ是ヨリ起
ル所ノ苦情ハ一切之ヲ受理セサルヘシ

第三節 電報ヲ傳送スヘキ沿道線ノ指向ハ各其關涉ノ本局間ニ於テ協
議決定シタル如ク簡明ニ表示シ置クヘシ

第四節 發信人ニテ指示シタル局マテハ電報ヲ線上ニテ傳送シ其局ヨ
リ届先へハ郵便ニテ送達セラレシトシテ乞ハ、其望ニ應シテ之カ取扱
ヲナスヘシ

第五節 發信人ニテ電報ヲ傳送スヘキ線路ヲ指示セント欲セハ其信紙

シ端末ニ之ヲ記載スヘシ然ルキハ此指示ヲ信紙ノ額表ニ於テ傳送
ス(第二十五條第二節並第二十七條第一節)但其記載シタル地名ノ
線ヲ過キ不用ニ屬スルキハ之ヲ傳送セサルヘシ

○ 線路阻碍 附 二重傳送

目第四十二條

第一節 常用線路ニテ電報ヲ傳送スルノ際俄ニ阻碍起リタルキハ其阻
碍アル前局ヨリ直ニ郵便(書留又ハ別配達)又ハ尙一層迅速ナル方便
ヲ以テ其電報ヲ送達スヘシ例ハ岐路迂遠ノ別線ニテモ郵便ニ比ス
レハ尙ホ速ナルノ類(其料金ノ計算方ハ第七十五條第四節)アリ右
郵便稅ハ其電報ヲ郵送スル所ノ局ニテ之ヲ支辨シ封皮ニ電報ト表書
スヘシ

第二節 右ノ如キ電線ヲ用ヒストモ他ニ好方便アリテ或ハ最近ノ電信
分局ニ郵送シテ其局ヨリ電送スルカ或ハ終局カ或ハ受信人ノ名處其
局地ノ管内ニアルトキハ直ニ之ヲ配達スヘシ
線路全通スルトキハ更ニ線上ニテ之ヲ傳送スヘシ但既ニ其届先ヨリ
受證ヲ得ルカ又ハ電報非常ニ湊集シテ之ヲ再送スレハ常務ノ妨碍ヲ
ナスコト必然ナルキハ此限コアラヌ

第三節 歐羅巴以外各國へノ電報ハ更ニ高價ノ線路ヲ以テ之ヲ再送セ
ス但發信人ヨリ相當ノ料金ヲ納ムルハ此限ニアラス

目第四十四條

第一節 如何ナル事故ニテモ郵便ヲ以テ他局へ電報ヲ遞送スルハ必
ス之ニ番號ヲ附シタル送達證ヲ添フヘシ且之ヲ送ル局ヨリ線上ニテ
通報シ能フハ其遞送セシ通數并ニ其發遣ノ時刻ヲモ局報ニテ報知
スヘシ

第二節 右郵便到着シタルハ其局ニ於テハ先ニ電報アリタル通數ニ相
違ナキヤ否ヲ調査シ相違ナキハ則チ送達證ニ受領ノ印ヲ捺シテ直
ニ之ヲ其發遣セシ局へ返却シ且線路全通スルニ至ラハ局報ヲ以テ更
ニ右ノ受證ヲ傳送スヘシ其例左ノ如シ

第三節 三月三十日附第何號送達證ニ記載セル六十三通ノ電報ヲ受領セ
ル

第三節 先ニ通數ノ報知ナク唯郵便ノミヲ以テ送來ル通數ヲ受領シタ
ルハ亦第三節ノ規則ニ從フヘシ

第四節 電報封狀ヲ遞送シタル旨報知アリト雖モ若シ到着セサルハ
直ニ未達ノ趣ヲ報知スヘシ然ルハ發信局ニ於テ其時宜チ權リ郵便

ヲテ之ヲ再送スルカ又ハ後至ノ通信ニ妨ナクシハ之ヲ電送スヘシ

第五節 既ニ郵便ヲ以テ遞送セシ電報ヲ更ニ電送スルハ左例ニ準シ
局報ヲ以テ受信局へ報知スヘシ

伯林 從 古以釐士 送達證第何號ヲ附スル電報第何號ヲ二重ニ
送ル

第六節 第四十三條ニ云ヘル如ク受信人へ直ニ電報ヲ遞送スルハ線
路不通ノ事由夫ヲ併セ報スヘシ

第七節 如何ナル事故ニテモ郵便又ハ岐線ノ如キ權宜ノ方法ヲ以テ已
ニ送達シタル電報ヲ更ニ常用線路ニテ傳送スルハ其ニ重ニ送ル旨
ヲ額表中ニ記シ局内心得トシテ報知スヘシ例へハ第何番線ニテ(又
ハ)何地ヲ經テ(又ハ)郵便ニテ何月何日何局へ已ニ送達セシニ重電
報

g 通信遏止 附 檢査

目第四十五條

第一節 凡テ發信人ハ其本人ニ相違ナキ證據ヲ示シ發送ノ時機ニ後レ
サレハ其依託シタル電報ヲ止ムルヲ得ヘシ

第二節 未タ電報ヲ發送セザル前ニ發信人ヨリ其電報ノ返還又ハ遏止

第三節 既ニ電報ハ傳送ヲ終リシ後ナレハ發信人ハ更ニ料金を納メテ

電報ヲ發スルニ非サレハ取消ヲ乞フヲ得ス此電報ハ成ルヘク中繼
局々ニ逐送シ其原信ニ追及スルニ至テ止ムヘシ且發信人ヨリ一ノ返
信料ヲ納ムルキハ原信ヲ取消シタル局ヨリ發信局ヘ宛テ其處分方ヲ
報知スヘシ若シ返信料ヲ納メサルモノハ先拂郵便ヲ以テ此報知ヲ爲
スヘシ

原信並取消電報トモ其未ダ經過セサル線路ニ係ル料金ハ發信局ヨリ
之ヲ發信人ニ還付スヘシ

目第四十六條

第一節 條約書第七條ニ云ヘル其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ
風儀ニ悖ル私報ト見認メ其傳送ヲ遏止セント欲セハ速ニ其電報初發
國ノ電信本局ニ報知シテ之ヲ實行スルコトヲ得ヘシ

第二節 首尾及中繼ノ局々ニ於テモ此遏止ヲナスヲ得ヘシ但之ニ不服
ス者ハ其管轄本局ニ出訴スルヲ得ト雖モ該局ノ判決ニ對シテ別ニ控
訴スルヲ得ス

第三節 凡テ官報ノ傳送ニハ敢テ容喙スルヲ得ス何レノ電信局ニ於テ
モ之ヲ遏止スルノ權ナシ

第八篇

電報配達

目第四十七條

第一節 凡テ電報ハ受信人ノ住所宛又ハ留置トシテ郵便局宛若クハ電
信局宛トナスモ可ナリ

第二節 凡テ電報ハ受信シタル順序及其等級ニ從フテ其名處ヘ配達ス
ヘシ

第三節 電信局ノ配達管内ニ在ル住所ヘ宛タル電報ハ直ニ其名處ヘ配
達スヘシ

第四節 郵便局ニ留置クヘキ電報ハ着信局ヨリ直ニ郵便局ニ送達ス可
シ若シ其電報ニ郵便ノ指定アルキハ發信人並受信人ニハ別ニ課金セ
ス電信局ニ於テ前拂郵便ト爲シテ之レヲ郵便ニ附スヘシ若シ書留郵
便或ハ指定アルキハ之レヲ書留郵便ト爲シ發信局ニ於テ五拾
先士ニ超エサル稅ヲ課シテ其所得ト爲シ而シテ着信局ニ於テ其郵稅
ヲ支辨シテ之レヲ取扱ヲ爲スヘシ

第五節 港内ニ碇泊スヘキ船艦ノ乗客ヘ宛タル電報ハ成ルヘク其上陸セサル前ニ之ヲ配達スヘシ

目第四十八條

第一節 受信人ノ住所ニ配達スル電報ハ本人或ハ家屬ノ丁壯、雇人、寄寓者、又ハ屋主若クハ邸宅旅館ノ門掌ニ交付シテ可ナリ但受信人ヨリ書面ヲ以テ特ニ受取ルヘキ人名ヲ指定シ置クカ又ハ發信人ヨリ此電報ハ必ス其本人ニ交付セラレヘシト指定セシキハ此例ニアラス發信人ハ其電報ノ無絨配達ヲ請フコトヲ得ヘシ但無絨配達ヲ採用セスト公告スル國ニ於テハ必スシモ之ヲ執行スルヲ要セス

第二節 右二類ノ指定ハ電報名處ノ前ニ記載スヘシ其着信局ニ於テハ之ヲ封皮ニ轉寫シテ驅使ニ其要旨ヲ知ラシムヘシ

第三節 凡ソ電報ヲ其受信人ニ配達スルコト能ハサルキハ着信局ニ於テハ左ノ文例ニ依リ局報ヲ以テ其事由ヲ發信局ヘ報知スヘシ

第何號某ヨリ(月日及名處)受信セシマ、知レス拒メリ到着セス、出發セリ、

第四節 發信局ニ於テハ右名處ノ正否ヲ照査シ若シ誤謬アラハ左ノ文例ニ依リ局報ヲ以テ直ニ之レヲ改正スヘシ

第何號某ヨリ(月日)何某宛(改正ノ名處)最初ノ電報ハ誤送ナリ

第五節 誤謬ニアラサルキハ發信局ハ成ルヘク其不達ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ此報知ノ手数料トシテ五拾先士ニ超エサル金額ヲ納メシムルハ各局ノ權内ニアリ若シ其發信人ヨリ名處ノ改正補全或ハ其確實ナルコトヲ示サント欲セハ料金ヲ納メテ更ニ電報ヲ發スヘシ

第六節 名處ノ不分明或ハ不十分又ハ其受信人ノ不在若クハ受信ヲ拒絶スル等ノ故ヲ以テ別使等ノ届賃ヲ徵收スルコト能ハサルキハ其發信人ヨリ之ヲ償補セシムル爲ニ局報ニテ右金額ヲ發信局ヘ報知スヘシ若シ之レヲ發信人ヨリ徵收シ得サルキハ着信局ノ損失トスヘシ

第七節 受信家ノ門戸閉鎖シテアルカ或ハ其受信人ニ代リテ受領スヘキ人アラサレハ驅使ハ其住所ニ其事由ヲ書キ殘シテ電報ヲ持歸リ置キ受信人ノ來求スルキ之ヲ交付スヘシ

第八節 留置トシテ電信局ニ宛タル電報ハ受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ニ限り之ヲ交付スヘシ

第九節 此條ノ第七第八ノ兩節ニ掲ケタル電報ヲ六週間ノ終ニ至ルマテ尋不來ル者ナキキハ沒書トシテ之ヲ扯裂ス

第九篇

特格電報

綱第九條

同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達チ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟國電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

此各國中孰レモ音信ノ傳送及配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

a 至急私報

目第四十九條

第一節 私報ノ發行人ハ其名處ノ前ニ「至急」ノ語又ハ(D)ノ符號ヲ書シ通常電報料ノ三倍ヲ納ムレハ他ノ私報ニ先チ之ヲ傳送スルコトヲ得ヘシ

第二節 至急私報ハ他ノ私報ヨリ先ニ傳送スルコトヲ得ト雖モ其至急私報中ノ先後ハ第三十四條第二節ノ規則ニ依ルヘシ

第三節 前兩節ノ規則ハ其管内ノ線路中或ハ全部或ハ一部ヲ限リ之ヲ施行シカタク旨ヲ報告シタル本局ニ於テハ之ヲ採用セサルモ亦可ナ

リ

第四節 至急私報ノ發送ノニ應承スル本局ハ其電報ノ初發國ト着信國トノ間ニテ該局アル領地ヲ直通ニ横過シタル線又ハ中繼分局ニ於テ之ヲ傳送セシムルコトヲ許スヘシ但此通信ニ課ス可キ中繼稅モ他ノ沿路ノ如ク之ヲ三倍ニスヘシ

b 返信料前納

目第五十條

第一節 凡テ發行人ニテ其電報ノ返信ヲ要セハ料金を前納スルコトヲ得ヘシ然レモ右料金ハ原信同一ノ線路ヲ經過スル電報三十語ノ價ニ超ニ可カラス但第二十四條ニ依リ既送電報ニ關スル返信ヲ請求スルモノハ此限ニアラス

第二節 發行人ニテ前納セントスル返信語數ヲ記セサルキハ同一ノ線路ヲ經過スル通常電報十語ノ料金を納ムヘシ

第三節 前節ニ依テサルキハ發行人ニテ返信料前納又ハ(RP)ノ外ニ其返信語數ヲ示シ本條第一節ニ云ヘル定限内ノ料金を納ムヘシ

第四節 連名電報ノ發行人ニ於テ受信人各自ヨリ受領ス可キ返信料ヲ前納セントスルキハ各受信人名處ノ前ニ返信料前納又ハ(RP)ト記入

第五節 發信人ニテ至急返信料ヲ前納セントスルハ名處ノ前ニ至急返信料前納又ハ RPD ノ指定ヲ記入シ原信ト同一ノ線路ニ於ケル至急報拾語ノ料金ヲ納ムヘシ但發信人ハ右ノ指定ト語數トヲ併記シ本條第一節ニ定メタル制限内ノ料金額ヲ前納スヘシ

目第五十二條

第一節 着信局ニ於テハ前納ノ料金ニ當ル證券ヲ以テ受信人ニ交付シ受信人ヲシテ別ニ現金ヲ出サシメス何レノ地方ニテモ前納料金内ハ隨意ニ電報ヲ送ラシムヘシ但此證券ハ交付セシ日ヨリ六週日間費用スヘキモノニシテ此期限ヲ過クレハ廢紙トナシ其前納金額ハ證券ヲ交付セシ局ノ所有トナスヘシ

第二節 受信人ニテ證券ヲ費用セサルハ歐洲内ニ於テハ返信料前納ノ金額ヲ還付セズ歐洲外ニ於テハ之レヲ還付スルヲ得

第三節 料金ノ還付ヲ請求セント欲セハ本條第一節ニ云ヘル六週日ノ期限内ニ受信人ヨリ着信局ニ依頼シテ證券ヲ差出スヘキモノトス

第四節 右還付方ハ定例(之ヲ報知スルニハ郵便ヲ用フルノ類)ニ依リテ取扱フヘシ

第五節 返信ノ爲メニ交付スル證券ヲ受信人ニテ固辭スルハ着信局ヨリ局報ヲ以テ其旨ヲ發信人ニ報知スヘシ此局報ハ返信ノ代リト爲スヘシ

第六節 此局報ハ左ノ文例ニ依リ私報ト看做シテ傳送スヘシ
何月何日第何號ヘノ返信料ハ
受信人ニテ固辭ス

第七節 第四十八條第三節ニ掲ケタル事故ヨリシテ其電報到着ノ際速ニ之ヲ交付スルヲ能ハサルハ同節ニ舉ゲタル文例ニ依リ局報ヲ以テ其旨ヲ發信局ヘ報知スヘシ

第八節 前節ノ如ク尋問セシ後其正誤ヲキリテ猶受信人ヲ百方探索シ而シテ八日ヨリ至リ若シハ其以前ニ於テモ全ク所在ヲ發見セサルニ決セハ復テ前節ニ云ヘル文例ヲ以テ其確報ヲナシ之ヲ返信ノ代リト爲スヘシ

目第五十三條

第一節 前三條ノ規則ハ之ヲ施行シカタク旨ヲ報知シタル歐洲外ノ電信本局ニ於テハ之ヲ採用セサルモ亦可ナリ

第二節 此ノ如キ歐洲外ノ本局ニ發送スルニ於テハ返信料トシテ納メ

金額ハ其着信局ノ收入計算中ニ組込ムヘシ其着信局ニ於テハ受
信人ノ爲メ便宜ナル方法ヲ設ケ之ヲ取扱ラヘシ

反復
照校電報
目第五十三條

第一節 凡テ發信人ハ其電報ノ照校ヲ乞フコトヲ得ヘシ然ルトキハ名處
ノ前ニ照校又ハ(TC)ノ指定ヲ記入スヘシ此電報ハ其傳送ニ關係ノ局
々互ニ其全文ヲ悉皆反復スヘシ

第二節 何種ノ機械ヲ用フルトモ照校電報ヲ受ケタルトキハ直ニ受信
局ヨリ之ヲ反復スヘシ

第三節 反復
照校 手数料ハ同線路ヲ以テ送ル同語數ノ通常電報料四分ノ一
ナル金額ニ齊シ

d 受信報知
目第五十四條

第二節 凡テ發信人ハ其電報配達ノ後受信人ノ受領セシ時刻ヲ電報ニ
テ報知セラレシコトヲ得ヘシ然ルルハ名處ノ前ニ受信報知又
ハ(CR)ノ指定ヲ記入スヘシ

第三節 受信報知ノ手数料ハ同線路ヲ以テ送ル通常電報十語ノ料金ニ

齊シ

目第五十五條

第三節 受信報知ハ(CR)ノ符號ヲ以テ表示シ左ノ支例ニ依リテ傳送ス
ル(CR)巴里斯 從白倫 第何號電報ハ(受信人ノ名處)月日時
分)配達セリ(或ハ其不達ノ事由)

第二節 受信報知ハ之ヲ報知スル局ヨリ別番號ヲ記シ私報ニ先クナテ
傳送スヘシ

第三節 第四十八條第三節ニ掲ケタル事故アレハ同節支例ノ局報ヲ先
ニ送り而後電報ヲ配達スルコトヲ得ハ直ニ受信報知ヲ送ルヘシ若シ之
ヲ配達スルコトヲ得スシテ二十四時間ヲ過クルトキハ其事由ヲ報知ス
ル

e 追尾電報
目第五十六條

第一節 凡テ發信人ハ電報ノ名處前ニ追尾又ハ(FS)ノ指定ヲ記入シ着
信局ニ於テ其電報ヲシテ歐羅巴內受信人ノ所在ニ追尾傳送セシメン
コトヲ乞フコトヲ得ヘシ

第三節 電報ニ追尾又ハ(FS)ノ指定ヲ記シテ其他受指定ナキキハ

若信局ニ於テ其電報ニ記載シタル名處ニ送り而シテ受信人ノ住所ニテ更ニ新名處ヲ指示スルハ直ニ其新名處ヘ再送スヘシ但其新名處ハ電報中第一名處ノ後ニ記入スヘシ

第三節 若シ新名處ヲ指示セサルハ第四十八條第三節及ヒ第七節ノ規則ニ依リ其電報ヲ第一着局ニ留置クヘシ右電報ヲ新名處ニ再送シ

第二着局ニテ受信人ヲ尋得サルトキハ其局ニ留置クヘシ

第四節 追尾又ハ(FS)ノ指定ヲ記シ且其名處ヲ逐書シタル電報ハ其受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送スヘシ若シ空シク終尾ノ局ニ及ヒタルトキハ不得止該局ニテ前節ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第五節 追尾電報ノ本文ハ素ヨリ一語モ省略セス逐局之ヲ傳送シ其局ニ着スル毎ニ之ヲ受信人ニ交付スヘキ送達紙ニ書寫スヘシ但額表中ニ猶傳送スヘキ着地名中ノ首位ニ在ルモノハミテ以テ着信局名(第三十七條第一節b項)ヲ記入シ其他ノ地名ヲ要セス

第六節 追尾電報ノ發信人ニ課スルハ唯第一着局マテノ萬國料金を以テシ其逐書シタル名處ハ總テ有料語數ニ加算スル然レモ第一着局以外第三第三ノ通信料ハ受信人ヨリ徵收スヘキモノトス

第七節 此報知ハ左ノ交例ニ依リ記載スヘシ

徵收スヘキ料金は幾佛幾先ト

合語數ヲ以テ再送電報ノ料金を定ム

第七節 第一着信局以外ノ通信料ハ受信人ヨリ徵收スヘキモノナルヲ以テ逐處電信局ニテハ額表中ニ之ヲ記載シ無料ヲ報知スヘシ

第八節 此報知ハ左ノ交例ニ依リ記載スヘシ

徵收スヘキ料金は幾佛幾先ト

例ハ着信第一第二局等ニ於テ其國境以內ヘ更ニ順次追尾スルハ其受信人ヨリ徵收スヘキ料金は逐局傳送毎ニ其國內地ノ稅則ニ從テ之ヲ計算ス若シ其國境ヲ越エテ之ヲ追尾スルハ追收料金を逐國傳送毎ニ萬國電報ト看做シテ之ヲ課ス但此逐國ノ料金は送信スル國ト受信スル國トノ間毎ニ定メタル稅則ニ從テ之ヲ計算スヘシ

第九節 若シ着信局ニテ追尾ノ料金を徵收シ得サルハ該局ヲ管理スル本局ヨリ他ノ諸本局ヘ分配セシ料金を爲替券ニテ取戻スヘシ

目第五十七條

第一節 何人ニテモ其本人ニ相違キキヲ證明シ其平常配達ヲ受クル電信局ヘ豫テ新名處ヲ指示シ置キ同人ニ宛タル電報到着次第前條ノ例規ニ從ヒ其新名處ヘ再達セラレシヲ請フヲ得ヘシ

第二節 此再送ノ請求ハ必キ書面ヲ以テスヘシトモ得ヘシ
 第三節 各電信局ニ於テハ何タル指定ナキ通常電報ト雖モ時宜ニ因テ
 其受信人ノ住所ヨリ追尾再送ヲ請ハ、其願意ニ從ヒ之ヲ取扱フヘシ
 f 連名電報

本目第五十八條

第六節 同文ノ電報ハ同地ニ住スル人數名又ハ同地ニ於テ同名ノ數家
 へ各配達スルコトヲ得ヘシ

第二節 同地ニ住スル人數名又ハ同名ノ數家ニ宛タル電報ハ郵便配達
 ノ有無ニ拘ハラズ一箇ノ電報ト看做シ其料金を課スヘシ但甲一通ノ
 外乙丙ハ謄寫料トシテ一通毎ニ一百語以内ハ五拾先士ヲ課シ之ニ過
 シレハ又一百語毎ニ五拾先士ヲ増課スルニ至リ百語未滿ト雖モ亦同シ
 右課金方ハ電報本文、記名、及名處ヲ合加シタル全語數ニ依リテ計算
 シ別々ニ各通ニツキ謄寫料ヲ徵收スルモノトス

第三節 一ノ電信局ノ配達管内ニ於テ同處及各處ニ住スル同名或ハ數
 名ニ宛タル電報ヲ傳送スルトキハ郵便別使等ノ有無ヲ論セス其名處
 ノ數ヲ額表中ニ記載スヘシ
 第四節 本條第二節ニ云ヘル數名及ノ電報ハ發信人ヨリ送達紙各通ニ

受信人ノ連名送記ナルコトヲ請求スルニ非サレハ電報一通毎ニ一名ノ
 ミチ記タルモ得ヘシ但此請求名處欄内ニ記セシメ有料語數ニ加算
 スヘシ
 g 萬國電線以外ノ地方ヘノ電報
 目第五十九條

第一節 萬國電線ヲ以テ接続セサル地方ヘノ電報ハ發信人ノ依頼ニ從
 テ郵便又ハ別使ヲ以テ其名處ノ地ヘ送達スルコトヲ得ヘシ然レモ此別
 使ノ送達ヲ乞フコトハ條約書第九條ニ基キ電報ヲ送ルニ郵便ヨリ一層
 迅速ナル方法ヲ設備スル旨ヲ他ノ國々ヘ豫テ報知シタル國ヘ向テテ
 發遣スル者ニ限ルヘシ

第二節 電線沿路外ヘ配達スヘキ電報ノ名處ハ左ノ文例ノ如ク記スヘ
 シ
 別使(或ハ郵便) ミニルレル氏(人名) ヨハレニスタール(街) 伯林(局地) 名

目第六十條
 第二節 郵便ヨリ迅速ナル方法ヲ設ケタル國々ニ於テ此法ヲ以テ電信
 局以外ヘ送達スルコトノ入費ハ其受信人ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第三節 然リト雖ハ受信報知ヲ要スル電報ナレハ發信局ニテ豫定シタル持運賃ノ金額ヲ發信人ヨリ預ケ置クヲ得ヘシ右預收金額ハ其現費ヲ受信報知ニ記載シテ其過不足ヲ精算スヘシ

第三節 歐洲外ノ線路ニ在ル着信局以外ヘノ配達ニハ本條ノ規則ヲ用ヒテ總テ此配達入費ハ其本局ヨリ豫テ決定報知シタル金額ニ依リ發信局ニ於テ之ヲ收入スヘシ故ニ受信報知並ニ現費精算ヲモ要セサルモノトス

第四節 右第二節及第三節ニ云ヘル場合ニ於テハ別使賃前納又ハ(XP) 騎使賃前納又ハ(EP)ヲ名處ノ前ニ記入シ其賃金ヲ納ムヘシ但第三節ニ云ヘルモノヲ除クノ外ハ(OR)ノ符號ヲ現ニ記入セサルモ前ニ記載セル符號(XP)又ハ(EP)アルトキハ必ス受信報知ノ手續ヲ爲スモノトス

目第六十二條

第一節 着信局ニ於テ郵便ヲ用フル權アルヲ左ノ如シ

a 遞送ノ方法ヲ電報中ニ指定セサルトキ

b 設如ヒ其指定アリト雖モ條約書第九條ニ基キ其着信國ニテ設備シタル方法ニ背キシトキ

c 曾テ配達セシトキ受信人ニテ持運賃ヲ拒絕セシニ依リ爾後同人

ヘ宛タル電報ヲ送達スルトキ

是ハ先拂トシテ郵便函ニ投入スヘシ

第二節 着信局ニ於テ郵便ヨリ外ニ迅速ナル方法ノ設ナキハ已ムヲ得ス郵便ヲ以テ送達スヘキモノトス

第三節 郵便ヲ以テ配達スヘキ各種ノ電報ハ其發信人又ハ受信人ナシテ別ニ納金セシメス着信局ヨリ郵便ニ付スヘシ但次ノ三節ハ此限ニアラス

第四節 書留書狀トシテ郵便ニ付スヘキ電報ハ發信局ニ於テ五拾先士(最高額)ニ過キサル金額ヲ課シ其所得ト爲スヘシ

第五節 海上ヲ經テ郵送スヘキ電報ハ發信局ニ於テ若干ノ金額ヲ徵收スヘシ但其郵稅額ハ此ノ如キ遞送ヲナス所ノ本局ニテ豫テ之ヲ決定シ他ノ本局ヘ報知シ置クモノトス

第六節 國疆近傍ニ在ル電信局ヘ傳送シ其レヨリ郵便ヲ以テ隣國ヘ配達スヘキ電報ハ先拂書狀トシテ郵便函ニ投シ其稅ハ受信人ヨリ納メシムヘシ

第七節 然レモ若シ國疆ニ跨越スル電線上ニ於テ大障礙ノ起リシトハ

第四十三條 依リ取扱フヘシ
 第八節 書留書狀トシテ配達スヘキ電報ヲ直ニ書留ニスルコト能ハサル
 詳ハ郵便出發ノ時機ヲ失ハサラシメシカ爲ニ先ツ通常書狀トシテ郵
 便ニ托シ更ニ至急ニ其寫ヲ書留ニシテ再送スヘシ

h 號標電報

目第六十二條

第一節 號標電報トハ同盟諸國ノ海岸ニ於テ之ヲ建設シ又ハ建設スヘ
 キ號標臺ヲ媒介トシテ海上ニ在ル諸船ト通信スルモノヲ云フ

第二節 號標電報ハ號標臺ノ設アリテ之ヲ取扱フ國ノ國語若クハ萬國
 通商符號ヲ以テ書スヘシ但該符號ヲ以テスルハ之ヲ秘辭電報ト看
 做スヘシ

第三節 海上船艦ヘノ電報宛名ニハ通常指定ノ外ニ其國名及船名若ク
 ハ公定番號ヲモ示スヘシ

第四節 海上ノ船艦ヨリ官報ノ號標電報ヲ標送スルハ特別ナル檣旗
 ノ徽章ヲ官印ニ代用シ必ズ其艦名ヲモ送ルヘシ

第五節 號標電報ハ額表中ニ號標ノ符號ヲ示スヘシ

第六節 號標臺ヲ媒介トシテ海上ノ船艦ト交通スル電報ノ料金は一通

ニツキ貳佛下定メ此課金ノ外ニ電機通信ニ係ル定例ノ料金を加課ス
 ヘシ而シテ此金額ハ海上ノ船艦ニ宛タル電報ナレハ發信人ヨリ納メシ
 ノ又海上ノ船艦ヨリ出セシ電報ナレハ受信人ヨリ納メシムヘシ(第
 三十條第一節)然ルレバ額表中左ノ如ク表示スヘシ
 徵收スヘキ料金は佛幾先士
 若シ此料金を徵收シ能ハサルハ爲替券ヲ以テ着信局ヘ右金額ヲ償
 フヘシ

目第六十三條

第一節 海上船艦ヨリノ電報ハ其船艦ノ請求ニ依リテハ萬國通商符號
 ヲ以テ之ヲ其名處ニ傳送ス

第二節 右ノ請求ナキハ號標臺ノ主長ニテ通常ノ語ニ譯シ之ヲ其名
 處ニ傳送ス

第三節 號標臺ヨリ船艦ニ送ルヘキ電報ヲ三十日內(依托ノ日ヲ算入
 セズ)ニ送ルコト能ハサルトキハ之ヲ沒書ト看做スヘシ

第四節 號標電報ヲ宛タル船艦二十八日內ニ入港セサルハ二十九日
 目ノ朝ニ方テ號標臺ヨリ局報ヲ以テ其事由ヲ發信人ニ報知スヘシ然
 ルレバ發信人ハ更ニ陸線通常電報十語ノ料金を納メ猶復々三十日間

右電報ヲ保留セラレシヨリテ請求スルノ權アリ而シテ其日限ニ至レハ
又此ノ如クナルヲ得ヘシ若シ此請求ナキハ三十日ニ至テ其電報ヲ
沒書トナスヘシ

i 特格電報ニ用フヘキ例規

目第六十四條

前條々ニ掲ケタル件々ヲ實施スルニ方テハ至急電報、返信料前納、照
校電報、受信報知、追尾電報、運名電報、及電線沿路外ニ送達スヘキ諸
電報等公衆ノ爲ニ設ケタル便利ノ方法ヲ一個ノ電報中ニ併用スルコ
ト得ヘシ然レモ第十條第五節第六節ニ掲ケタル規則ニ反ルヘカラス
第十篇

局報

網第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トス

第一 官報 即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ
云フ

第二 局報 即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處
務ニ關シ或ハ各局協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三 私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシテ他ノ報信ヲ後ニス

網第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ
傳送スヘシ

目第六十五條

第一節 局報ハ第十四條第一節ニ其文例ヲ揭示シタル局務本職及同條

第二節ニ記載シタル局用報知ノ二種トス

第二節 局報ハ至急事件ニ限リ之ヲ用フヘシ(第二十二條)

第三節 局報ハ隨時ニ秘辭ヲ以テ書スルヲ得ヘシ(條約書第六條)但一
般ノ例規ハ佛語ヲ用フヘキモノトス(第七條第三節)

目第六十六條

第一節 凡テ局用報知ハ傳送上ニ不慮ノ事件起リテ已ムヲ得サレハ何
時ニテモ局々ノ間ニ交送スヘシ就中已ニ傳送シタル電報ノ局内指示
ニ不規則アルハ(第二十六條第四節)又ハ已ニ傳送シタル一列電報ニ
關シテ校正等ヲ要スルハ(第四十一條第一節第二節)又ハ電線ノ障碍
ニ依リ郵便ヲ以テ電報ヲ他局ヘ送達シタルハ(第四十四條)又ハ電報

ヲ其受信人ニ交付シ得サル者(第四十八條)又ハ號標電報ヲ宛タル船艦二十八日內ニ入港セザル者(第六十三條第四節)等ノ如キ是ナリ

第二節 已ニ傳送シタル電報ニ關スル局用執知ハ成ルヘク原信ノ通行シタル線路ニ由テ之ヲ送ルヘシ且此報知ニハ原信ノ月日名處記名等其搜索ニ便要ナル條件ヲ記載スヘシ

第三節 其中間何レノ局ニ於テモ此報知ニ答ヘ或ハ其請問ニ就テ處分スヘキ諸事件ノ要ヲ知悉セハ他局ヘ無益ノ傳送ヲ省クカ爲ニ其局ニテ之ヲ處分スヘシ

第十一篇

電話通信

目第六十七條

第一節 同盟各國ノ電信局ハ需用ノ多少ニ應ジ特線ヲ架設シ又ハ在來ノ線路ヲ用ヒテ萬國電話ノ通信ヲ組織スルコトヲ得

第二節 各電信局間ニ於テ特約アルモノ、外此線路ヲ總テ電話中央局ニ連接セシメ其中繼ヲ以テ公衆用開設ノ電話局、私宅、商店、工場等ノ間ニ通信スルコトヲ得

第三節 器械ノ撰擇事務ノ詳細ハ各電信局ニ於テ議定スヘシ而シテ各

電話線ニ係ル料金ハ衆議一決ノ上之ヲ定ム

第四節 課金方並ニ通信ノ時限ハ談話五分時間ヲ以テ單位ト定ム

第五節 電話線ヲ使用スルトキハ請求ノ順序ニ從フニシテ二談話時間前又ハ其時間中他ノ請求者無キ時ニ非サレハ同通信者ハ二談話時間(各五分間)以上續テ使用スルコトヲ許サス

第十二篇
信紙貯藏

目第六十八條

第一節 電報ノ原書及之ニ關係スル書類ハ其日ヨリ少クモ六ヶ月間之ヲ貯藏シ秘シテ漏レサルヤ百方注意スヘシ

第二節 歐洲外ノ方法ヲ用ヒタル電報紙類ハ貯藏期限ヲ延シ十八ヶ月間トス

目第六十九條

第一節 電報ノ原書或ハ謄寫ハ發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ハ其確證アラハ獨リ其人ニ限り之ヲ視セシムルヲ得ヘシ

第二節 發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ハ原信ノ文言ニ相違ナキ電信局ノ蓋印アル謄寫ヲ請求スルコトヲ權アリ然レモ着信局ニ於テ

ハ其貯藏アラハ受信人ニ交付シタル正寫ヲ與フヘシ但電報紙類貯藏ノ期限ヲ過シレハ一切之ヲ許サス

第三節 本條ノ例ニ依リ交付スル電報ハ百語以下ナレハ其寫毎ニ五拾先士ノ手数料ヲ課シ百語以上復タ百語ニ至ルマテハ皆五拾先士ヲ課ス

第四節 發信人受信人又ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ請求スル電報ハ之ヲ搜索スルニ必要ナル事項ヲ詳細ニ申陳セサレハ各電信局ニ於テハ右電報ノ原書及其寫ヲ一覽セシメヌ又交付スヘカラス

第十三篇

料金還付

目第七十條

第一節 料金ヲ收納シタル電信本局ハ時宜ニ依リ其既ニ分配シタル他ノ本局ヨリモ之ヲ返却セシメ一併ニシテ發信人ニ還付スルコトアリ其件左ノ如シ

- a 凡テ電信取扱上ノ過失ニ依テ甚シク遲延ニ迫ヒ又ハ其名處ニ達セサル電報ノ全料
- b 電報傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用便チ欠キタルコト判然ナル照校

電報ノ全料

c 歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テ通常電報傳送中取扱上ノ過失ニ依リテ遺漏シタル語數ノ全料但受信人ニ於テ其遺漏ヲ察知シ目第二十四條第一節及第二節ニ依リ之レヲ尋問校正セシメタルハ本節ノ規則ヲ適用セサルモノトス

第二節 海底線不通ノ際ニ於テ發信人ハ其電報ノ未ダ經過セサル線路

ニ係ル料金ノ還付ヲ請求スルノ權アリ但時宜ニ因テ他ノ方便ヲ以テ電報ヲ送達セシキハ其入費ヲ差引キ還付スヘシ

第三節 前同様ノ還付ヲ爲サ、ル不同盟國ノ線上ヲ經過セシ電報ニハ前兩節ノ規則ヲ用フヘカラス

第四節 本條ノ還付規則ハ唯其紛失遲延又ハ誤謬アリタル電報ノ料金並ニ雜費(配達等ノ諸費)及第二十四條ニ云ヘル電報ノ料金ニ限り之ヲ用フルモノトス故ニ右紛失遲延又ハ誤謬アルカ爲テ不得止往復ヲナシタル電報又ハ之カ爲メ不用トナリタル電報ノ料金ハ之ヲ還付セス

目第七十一條

第一節 凡テ料金還付ヲ請求ハ其電報ノ日附ヨリ二ヶ月以内ヲ限リ之ヲ過クシレハ一切受理セザルモノトス

歐洲外ノ方法ヲ用フル電報ハ此時限ヲ延シテ六ヶ月間トス

第二節 此請求ハ必ズ左ノ證據書類ヲ添テ發信地ノ本局ニ申立ヘシ即チ

不達ノ節ハ其著信局ガ又ハ受信人ヨリノ書面ヲ添ヘ

誤謬遅延ノ節ハ其受信人ノ所持スル電報ノ原書ヲ添ヘ

若シ受信人ヨリ著信地ノ本局ニ其請求ヲナスモ妨ケナシト雖モ此際

ニ於テハ該局ニテ其總受スヘキヤ又ハ之ヲ發信地ノ本局ニ通知スヘ

キヤ否ヲ判決スヘシ

第三節 關係ノ各本局ニ於テ其請求ノ件ヲ至當ト認ムルキハ其發信地

ノ本局ニ於テ之ヲ還付スヘシ

第四節 發信人曩キニ其電報ヲ依托シタル後其國ヲ去リ他國ニ住居セ

シキハ該國ノ電信本局ヲ經テ右請求ヲ發信地ノ本局ニ申立ルヲ得

ヘシ然ルトキハ時宜ニ依リ其發信人ノ當時現在セル國ノ本局ニ委託

シ其金額ヲ還付セシムルニ依リ

第五節 本局ヨリ本局ヲ經テ照會スル料金還付ノ請求ニハ其關係アル

諸書類ノ原書正寫又ハ摘抄ヲ添ヘテ回達スヘシ而シテ此等ノ文書若

シ佛語ニ非サレバ其概客ヲ佛語又ハ關係ノ局々ニ於テ通曉シ得ヘキ

國語ヲ以テ副記スヘシ

第六節 左ノ苦情書ハ本局ヨリ本局ニ通達セズ

a 苦情書ノ事件還付ヲ聽許スルカラザルキ

b 作文ノ國語、曉解シ易キ書法、名處、及電線沿路外ニ送達ノ指定

等公衆ノ爲メニ定メタル諸般ノ例規ニ從ハス凡テ發信人ニ於

テ其誤謬ヲ甘受シタル電報ニ關スルトキ

目第七十二條

第一節 凡テ電報不達ノ節ハ其取扱上ニ於テ誤謬組漏等ヨリ送ニ受信

人ニ達スルコトヲ妨害シタル線路ノ本局ニテ其料金ヲ辨償還付スヘシ

第二節 電報ノ不達ニ關スル苦情書ヲ却下スルキハ受信人ノ受領證或

ハ著信地本局ノ證明書ヲ以テ其電報ノ既ニ達シタルコトヲ確證スヘシ

第三節 電報遅延ノ節ハ之ヲ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ漸ク

其名處ニ達シタルキハ其料金ノ還付ヲ乞フコトヲ得ヘシ但歐洲内ノ電

報ハ遅延時間四十八時(二晝夜)歐洲外ニハ百四十四時(六晝夜)ヲ過

シルキハ此還付ヲ爲スヘシ

第四節 料金ノ還付ハ各遅延ヲ釀シタル局々ニテ其時間ニ應シ之ヲ分

賦辨償スヘシ

第五節 照校電報ニ誤謬ヲ生シタルトキハ發信地ノ本局ヨリ其傳送ニ
 關涉シタル諸本局ニ回報シ其電報ノ用辨ヲ闕クニ至ラシメタル誤謬
 ノ穿鑿ヲナスヘシ其辨償ノ割合ハ關係局々各自ノ線上ニテ釀成シタ
 ル誤謬ノ多寡ニ從ヒ之ヲ計算シ其脫語剩語ヲ一誤謬ト爲スヘシ
 第六節 一度ヒ過誤ヲ生セシ後チ數局ノ線上チ連續經過シタル語ハ其
 始メニ誤リシ所ノ本局ヨリ之ヲ辨償スヘシ
 第七節 凡テ誤謬脫語ノ過失ハ左ノ事項ニ依テ辨償スヘシ
 a 受信局ニ於テ電報語數ヲ能ク驗明セサルヨリテ語辭數字又
 ハ文字ノ脱落剩餘アルキ及照校電報ノ反復ヲ忘却シ又ハ之ヲ
 丁寧反復セサルキ加チ之ヲラズ露士機運轉ノ不順ヲ修整セサル
 件ハ送受兩局ヨリ辨償スヘシ
 b 送信局ヨリ誤謬ノ校正チナスト雖モ受信局ニ於テ其校正ヲ怠
 ルキ及局内反復ヲ受了スト雖モ前受ノ電報ヲ校正セサルキハ
 受信局ヨリ辨償スヘシ
 c 此他ノ誤謬失錯ハ總テ送信局ヨリ辨償スヘシ
 第八節 一通以上ノ謄寫ヲ作シタル電報中幾通分カノ料金ヲ辨償スル
 件ハ其原書ト謄寫トヲ併セタル通數ヲ以テ收入全金額ヲ除算シ其商

チ得テ一通ニ對スル還付ノ金額ト定ム
 第九節 證據トナルヘキ書類以紛失又ハ不足ナルヨリテ誤謬脫語ノ
 過失ヲ何レノ局ニ歸スルニ由ナキキハ其證據ヲ有セサル本局ヨリ辨
 償スヘシ
 第十節 第七十一條第一節ニ定メタル期限内ニ料金還付ノ請求ヲ受ケ
 而シテ其請求書ヲ回達セシニ第六十八條書類貯藏ノ期限以内ニ其結
 局ノ報知ナキキハ其請求書ヲ受ケタル本局ニ於テ右穿鑿ヲ遲滯セシ
 本局ノ爲ニ假ニ其請求ノ料金ヲ辨償スヘシ
 第十一節 歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニハ其電報經過ノ線路ニ在ル各
 政府ノ局又ハ會社ニ於テ各自ノ割合ヲナシ其料金ヲ辨償スヘシ
 目第七十三條
 第一節 條約書第七條第八條ニ基キ電報ヲ抑遏シタル際發信人ヨリ其
 料金還付ヲ請求セハ之レヲ還付スヘシ而シテ其還付ハ抑遏シタル本
 局ノ負擔タルヘシ
 第二節 右ノ本局ニ於テ條約書第八條ニ基キ電報ノ種類ヲ限リ停止ス
 ルノ告知ヲナシタルキ之ヲ停止スヘキモノアラハ其電報料還付方ハ
 告知ノ到達日以後ハ發信地ノ本局ニテ之ヲ負擔スヘシ

第十四篇

萬國會計

綱第十二條

同盟各國ハ互ニ其收税ノ計算ヲ爲スヘシ

目第七十四條

第一節 萬國會計ヲナスニハ佛ヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第二節 凡テ國々ヨリ隣國ヘノ電報ハ其國境ヨリ配達地ニ至ルノ料金

ヲ計算シ其全額ヲ隣國ノ收入計算中ニ組込ムヘシ

第三節 海上ヨリ受領シタル號標電報ヲ傳送シ又ハ追尾電報ヲ再送ス

ルハ前節ト正ニ相反ス即チ號標電報ナレハ其發所ヨリ國境マテ追

尾電報ナレハ其再送地ヨリ國境マテノ料金ヲ隣國ニテ我局ノ收入計

算中ニ組込ミ置ヘシ(第五十六條第六節乃至第九節並第六十二條第

六節ヲ參考スヘシ)

第四節 發着料金ハ首尾兩國ト中間諸國トニ於テ前以テ結約セハ唯ク

首尾兩局ノ間ニテ直ニ精算スルモ妨ケナシ

第五節 料金ノ計算ハ協議ニ決メ上ナレハ電報ノ語數及雜費ノ有無ヲ

問ハス其國境上ヲ經過スル電報通數ニ依リテ計算スルモ妨ケナシ此

場合ニ於テハ隣國若クハ其次ノ各國トノ分配ハ豫テ協議編製シタル

概算法ヲ以テ決算スヘシ(第七十六條第二節ヲ參考スヘシ)

第六節 第八十七條ヲ實施スルトキ同盟セサル電線ト隣接スル同盟本

局ハ他ノ同盟本局ト右不同盟ノ線トノ間ニ於テ編送ノ媒介ヲ爲シク

ル後其會計ヲ調理スルヲ負擔ス

目第七十五條

第一節 寫ノ手数料又ハ線路外ヘノ送達料ハ其寫ヲ配達シ又ハ其送達

ヲナシタル國ニ於テ收納スヘキモノトス

第二節 返信料前納及受信報知ノ爲メ收納シタル金額ハ之レヲ精算法

又ハ前條ノ第五節ニ云ヘル概算法ヲ以テ計算シ其着信局ノ收入計算

中ニ組込ミ置クヘシ然レモ第五十一條第三節第三節第四節ニ依テ返

信料ヲ還付セシキハ其金額ヲ還付シタル發信局ノ次月々計ノ時ニ差

引シ

第三節 返信料前納及受信報知ハ其傳送及會計上トモ總テ通常電報ト

同様ノ取扱ヌルヘシ

第四節 歐洲内ノ方法ヲ用フル通信ニシテ稅則ヲ定メタル線路ニ由ラ

ズル者ハ既ニ受領シタル中繼稅ハ迂回線ニ入タル場所ヨリ定則中繼

○第一類○行政法○電信條約書綱目別冊

税ノ比例ニ準シテ計算シ之ヲ其關係ノ局々ニ配當スルキモノトス
隣接セル國々ノ間ニ於テ迂回線路ヲ假用シテ通信スルハ其發信局
ニ於テ定則ノ中繼稅額ヲ變更スルヲ得但特別ノ約束アルモノハ此限
ニアラス

第五節 歐洲外ノ方法ヲ用フル通信ニ於テハ何種ノ電報ニテモ凡テ其
料金ヲ定メタル線路ニ由ラスシテ他路ヨリ傳送セシカ爲メ料金ニ不
足ヲ生スルトキハ其線路ヲ變換シタル本局ニテ辨償スヘシ但此變換
ヲ生セシ起因ノ有無ヲ他ノ本局ニ尋問シ若シ之レ有ラハ其局ヨリ追
收スヘシ

目第七十六條

第一節 精算法ヲ以テ(或ハ時宜ニ依リテハ第七十四條第五節ニ云ヘ
ル概算法ヲ以テ)各國間ニ比較分配スヘキ料金ハ關涉ノ各國間ニ定
メタル稅則ニ依リ相當ニ收納シタルモノヲ以テ其本額トスヘシ但誤
算ニテ受ケタル過不足ノ金額アルトモ取テ之ヲ加算セス

第二節 發信局ヨリ報知シタル語數以テ料金收納ノ本據トス但傳送
上誤謬アルカ爲ニ發信局ト中繼局ト協議ニ決シ上中繼局ニテ其語數
ヲ改易セシキハ此例ニアラス

第三節 概算法ヲ編製スルニハ先ツ各電報料ト雜費トヲ區分シテ毎月
其合數ヲ計算シ置ク可シ(第七十五條ヲ參考スヘシ)而シテ全月中ニ
其關涉セル國々ノ爲メニ計算シタル料金ノ總額ヲ其全月中ノ通數ニテ
除算シ其商ヲ以テ爾後分配スヘキ平均額トシ之ヲ改定スル迄ハ此額
ヲ以テ概算法ノ標準トナスヘシ但異常ノ事故アルトキハ除クノ外一
ク年以内ニ此改定ヲ爲スヘカラス

目第七十七條

第一節 互相會計ノ整理ハ毎月末ニ於テスヘシ
第二節 過不足ノ差引計算ハ每季末ニ於テスヘシ
第三節 雙方差引計算ノ上一方ニ收納スヘキ不足ハ金貨「佛」ノ現金ニ
テ其債主國ニ交付スヘシ但之ニ關係スル兩電信本局ニ於テ他ノ貨幣
ヲ用フヘキ結約アルモノハ此例ニアラス

第四節 金額ノ回送費ハ其受取ルヘキ本局ニ於テ之ヲ辨スヘシ
目第七十八條

第一節 月々計算簿ノ交換ハ必ス其月ヨリ三ヶ月内ニ於テスヘシ
第二節 右計算簿ノ檢査ハ其到來ノ日ヨリ六ヶ月内ニ於テスヘシ但是
ハ最寬ナル日限トス

若シ右期限中ニ彼局ヨリ正誤ノ報知ナキハ我局ノ計算上ニ差違ナ
キモノト見做スノ權アリ右例規ハ彼局ヨリ送りタル計算ヲ我局ニテ
檢査スルニモ之ヲ用フヘシ

第三節 兩本局ノ計算簿ヲ整理シ其合計ニ少差違アリト雖モ雙方差引
計算ノ上一方ヨリ收納スヘキ現金額ニ就テ其差違一百分ノ一ニ超過
セサレハ之ヲ改算セシメテ可ナリ

假令已ニ改算ニ着手スト雖モ雙方照査ノ上其差違ノ額一百分ノ一
超過セサルヲ承認スルトキハ之ヲ中止シテ可ナリ

第四節 歐洲内ノ方法ヲ用スル電報ニ關スル會計上ノ要求アルトモ六
ケ月ヲ過クレハ之ニ應承セズ歐洲外ノ方法ヲ用フル電報ニ關スルモ
ノハ十八ケ月ヲ過クレハ亦之ニ同シ

第十五篇

各國特裁

網第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約
定ヲ爲スノ權ヲ有ス
目第七十九條

條約書第十七條ニ定メタル特裁施行ノ件々ハ殊ニ左ノ如シ

- 一 國々間ノ稅則制定
- 一 會計整理
- 一 地位ニ應ジ並ニ特勢ニ隨テ特殊ノ機器又ハ文字ノ選用
- 一 電信切手方法ノ施行
- 一 電報ニテ郵便爲替ノ傳送
- 一 電報着處ニテ金銀ノ徵收
- 一 若處ニ於テ電報交付ノ方法
- 一 常務ニ妨ケナキヤウ特ニ時間及規則ヲ定メ低稅ヲ以テ新聞
印行用ノ電報ヲ傳送シ又ハ豫約法ニ依リ特線ヲ貸與スルノ
權利
- 一 氣象學其他公益事件ニ關スル無料局報ノ制限

第十六篇

事務根局 附 交互通信

網第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各ニ政府下ニ置ク萬國事務局ハ萬國電信ニ關
スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則並ニ細目規則ノ改正ヲ請求ス

○第一類○行政法○電信條約書綱目別冊

ル者アラハ其書ヲ同盟各本局ニ回達シ而シテ衆議一致シタル改正ノ件々
ヲ廣告シ且萬國電信ノ裨益トナルハキ諸項ヲ罷勉熟慮シテ之ヲ執行スル
等ノ任ヲ受クルモノトス
此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟各本局ヨリ支給ス
ヘシ

目第八十條

第一節 條約書第十四條ニ定メタル事務局ヲ稱シテ電信諸本局ノ「萬
國事務局」ト云フ

第二節 瑞西聯邦ノ電信本局ヲシテ第八十一條乃至第八十三條ニ定メ
タル條目ニ依リ萬國事務局組織ノ事ニ任セシム

目第八十一條

第一節 萬國事務局ノ費用トシテ諸本局ヨリ集金スル金額ハ毎年佛貨
七萬佛ニ超ユヘカラス但萬國會議ノ入費ハ此定額ノ外タルヘシ然レ
モ同盟各國衆議ノ上ハ將來此定額ヲ增加スルコトヲ得ヘシ

第二節 條約書第十四條ニ基キ萬國事務局ノ事務ヲ監督スル本局ハ費
用ヲ節制シ經費ヲ豫辨シ且諸本局ヘ報告スヘキ其年度ノ會計決算書
ヲ整理スヘシ

第三節 此費用ヲ差等分賦スル爲メニ同盟各國ヲ六等ニ區分シ左ノ比
例ニ依リテ若干株ヲ各國ニ分賦ス

- 第一等 二十五株
- 第二等 二十株
- 第三等 十五株
- 第四等 十株
- 第五等 五株
- 第六等 三株

第四節 右各等ノ定株ニ其等級ノ國數ヲ乘シ之ヲ合加セシモノヲ以テ
全株數トシ此全株數ヲ以テ事務局費用ノ全額ヲ除シ其商ヲ以テ一株
ノ金額トス

第五節 事務局ノ費用ヲ分賦セシムル爲メ前節ニ記載シタル六等ニ因
テ諸國ヲ區分スルノ如シ

- 第一等 日耳曼 伯西爾 佛蘭西 大貌列頓 英領印度 以太利
- 露西亞 土耳其
- 第二等 澳地利 西班牙 匈噶利
- 第三等 白耳義 葡領印度 那威 荷蘭 羅馬尼亞 瑞典

○第一類○行政法○電信條約書綱目別冊

第四等 南濠斯太利亞 喜望峰 丁抹 埃及 日本 新南威爾斯
 新西蘭 端西 多斯馬尼亞 維多里亞
 第五等 勃斯尼比耳日合維 勃爾牙利 交趾 希臘 葡萄牙 塞
 內牙爾 攝兒比亞 暹羅 突尼斯
 第六等 盧林堡 蒙的尼古羅 那多兒 波斯

目第八十二條

第一節 同盟各國ノ電信本局ハ其内國電信事務上ニ關スル諸報告ヲ互ニ寄贈シ且電機上新發明ノ事アル毎ニ互ニ告知スヘシ
 第二節 右等ノ諸報知ハ凡テ萬國事務局ヲ經テ贈答セラルル例規トシ
 第三節 諸本局ハ其内國並ニ萬國電信稅則ノ制定改正或ハ萬國通信ニ關スル漸線ノ設置、舊線ノ廢停、分局ノ開立、閉闔又ハ勤務時間ノ伸縮、等ノ諸報告ヲ前拂郵便ヲ以テ萬國事務局ニ通達スヘシ且其本局ヨリ發布スル文案ハ寫本或ハ摺本ニシテ其發布ノ當日又ハ遅クトモ其翌月ノ月始ニハ必ス萬國事務局ヘ送付スヘシ
 第四節 諸本局ハ萬國通信ニ關スル線路ノ不通及全通ノ報告ヲ凡テ電報ヲ以テ事務局ニ通達スヘシ
 第五節 諸本局ハ其通信ノ員數、景况、線路ノ位置、分局ノ員數、機器ノ

種類等ヲ統計表ニ明記詳載シ毎年始月ニハ必ス到達スルヤリ之ヲ萬國事務局ニ送付スヘシ但此統計表ハ豫テ萬國事務局ヨリ回達シタル式紙ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ
 第六節 諸本局ハ其各種ノ發行書類ヲ二部ツ、萬國事務局ヘ寄贈スヘシ
 第七節 諸本局ハ電信各科上ニ關シ經驗セシ事項アラハ之ヲ萬國事務局ニ報告スヘシ

目第八十三條

第一節 萬國事務局ハ稅則ヲ分部出版シ凡テ之ニ關スル事件ヲモ必ス諸本局ヘ報告スヘシ就中前條ノ第三節ニ掲載シタル件ハ勿論ナリ
 諸報告ノ至急ヲ要スルモノハ萬國事務局ヨリ電報ヲ以テ之ヲ傳達スヘシ就中前條第四節ニ掲載シタル件ハ勿論ナリ但諸稅則ノ改定ニ關スル諸報告ハ其改定ノ件々ヲ直ニ此附錄ノ稅表行中ニ加記スヘキ文體ヲ以テスヘシ
 第二節 萬國事務局ハ總集統計表ヲ編製スヘシ
 第三節 萬國事務局ハ諸本局ヨリ報知スル諸書類ニ基キ佛語ヲ以テ電信新誌ヲ刊行スヘシ

第四節 萬國事務局ハ公用ノ電信地圖ヲ上梓シ且定時毎ニ之ヲ改製ス

第五節 萬國事務局ハ萬國電信ニ關スル必用ノ諸報告ヲ同盟國諸本局ヨリ依頼スルキハ何時ニテモ之ヲ報スヘキヲ須知スヘシ

第六節 萬國事務局ニテ刊行スル諸書類ハ第八十一條ニ於テ差等分賦セシ株數ニ比例シテ同盟各國ノ諸本局ヘ之ヲ分與スヘシ若シ定數外ノ需求アルキハ其原費ノ代價ヲ納メシムヘシ私立電信會社ヨリ之ヲ需求スルキモ亦同シ

第七節 右定數外ノ需求ハ豫テ其員數ヲ事務局ニ通知シテ之ヲ定ムヘシ若シ其増減ヲ要スルトキハ更ニ之ヲ通知スヘシ故ニ其員數ヲ増減セント欲スルキハ印刷用意ノ爲メ數日前ニ之ヲ事務局ヘ通知スヘシ

第八節 萬國事務局ハ條約書第十條第十三條ニ云ル稅則及細目規則ノ改定アラソク一局若クハ數局ヨリ請フキハ其請求書ヲ同達シ其關係アル諸局ノ承諾ヲ得テ(時宜ニ依テハ間接ニ關係アル局ノ同意ヲモ得タル後)遅延ナク其採用セラレタル改定ノ件々ヲ告知スヘシ且稅則及規則ノ改定ハ如何ナル手續ヲ以テ之ヲ行フトモ必ズ告知スヘキモノトス但規則改定ノ告知ハ少クモ二ヶ月稅則改定ノ告知ハ少ク

モ十五日ヲ經サレハ之ヲ實施スヘカラス若シ異論アルキハ彼此ノ協議ヲ經テ實施スヘシ

第九節 同盟各本局ノ衆諾ヲ得テ當ニ一決スヘキ事件アリテ之ヲ同議ニ付シタル後定期四箇月内ニ其答書ノ到着スルヤウ差出サ、ル局々ハ之ニ同意シタル者ト看做スヘシ

第十節 萬國事務局ハ電信會議用ノ諸物品ヲ準備シ且會議前ニ其會議ノトキ補正スヘキ條件其他ノ書類ヲ纂輯上梓シテ分配スル等ノ事ヲ擔任ス

第十一節 萬國事務局ノ局長ハ會議ノ諸事ヲ幹辦シ會議ニ參與スルヲ得ト雖モ可否ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第十二節 萬國事務局ハ其處理セシ事項ニツキ年報ヲ作り之ヲ同盟各國ノ電信本局ニ寄贈スヘシ

第十三節 萬國事務局ノ處事ニ就テハ條約書第十五條ニ云ヘル會議ノ際議員ノ檢閱ニ供シテ其許可ヲ得ヘシ

第十七篇

電信會議

綱第十五條

第十條ニ云フ税則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬シタル者ニテ條約書ト同一ノ効チ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス
右税則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ
此會議ハ定規毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日並ニ場所ヲ定ムルモノトス

綱第十六條

此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス

會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルハ此限ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

目第八十四條

第一節 條約書第十五條ノ第三項ニ云ヘル會議ノ定期ハ同盟各國中ニ

於テ其進期ヲ請フモノ十箇國ニ及ヘハ此會期ヲ早クスルヲ得ヘシ

第十八篇

加入條約 附 不同盟國トノ通信

綱第十八條

方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

綱第十九條

此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進步ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フヘシ

目第八十五條

第一節 條約書第十八條ニ依リ同盟ニ加入セント欲スト雖モ同盟各國ニ準シテ其稅則ヲ相當ニスルヲ欲セサルモノハ各國皆此條約稅則ノ利益ヲ彼ト共ニスルヲ拒卻スヘシ

第二節 歐羅巴外ニテ所有スル數線路ヲ以テ此條約ニ加入シタル諸本局ハ其線路ノ歐羅巴内外孰レノ方法ニ隨フヤヲ確定陳述スヘシ此陳述ハ稅表中ニ錄示スルカ又ハ萬國事務局ヲ經テ其事由ヲ報告スヘシ
目第八十六條

第一節 私立電信會社ノ同盟國ノ間ニ接スル者アリテ萬國通信ヲ取扱フキハ其通信ニ關シテハ會社ノ線ト雖モ之ヲ合セテ該國電信ノ方法ヲ完成セルモノト看做スヘシ

第二節 私立電信會社ニテモ此條約並細目規則中ノ諸條件ヲ遵守スヘキコトニ同意シ且其營業ヲ許シタル國ヨリ其旨ヲ報告スルキハ此條約中ノ諸利益ヲ共ニスルヲ得ヘシ但此報告ハ條約書第十八條第二項ニ依リテ取扱フヘシ

第三節 同盟國ノ二三ヶ國ニ跨リテ電線ヲ架設シタル會社ハ必ス同盟ニ加入セシムヘシ假令之ニ加入セサルモ其架設ヲ許セシ國ニテ特別ニ記載シタル免許狀中ノ條件ヲ以テ同盟加入ノ旨ヲ揭示シ置クヘシ

第四節 私立電信會社ニシテ某同盟國ニ其線路ト自己ノ海底線トヲ連接スルノ特許ヲ乞フキハ該國認可ノ料金額ニ隨フヘキ旨ヲ承諾スル

ニ非サレハ其特許ヲ得ルコト能ハサルモノトス若シ此料金又ハ取扱規則中ノ改正ヲ行ハント欲セハ白倫萬國事務局ヨリ之ヲ報告シ目第八十三條第八節ニ記スル期限ノ後ニ非サレハ之ヲ實行スルコト得ス但右會社ハ條約ヲ締結セサル他ノ會社ニ對シテハ其便宜ヲ計リ本節ニ準據スルニ及ハス

第五節 前條ノ第一節ニ云ヘル拒却ノ權ハ前節ノ私立電信會社ニモ之ヲ適用ス

目第八十七條

第一節 此條約ニ加入セサル國又ハ此條約書中ノ欠ク可カラサル條件ヲ遵守セサル會社ト通信ヲ開クトモ其電報ノ經過スル線路ノ内同盟國ノ領地ニ係ル料金ハ必ス此規則ト毫モ差違アルヘカラス

第二節 同盟國ト不同盟國ト電報ヲ交送スルコトハ其本局ニ於テハ各自ノ地方ニ用フヘキ稅則ヲ定ムヘシ但同盟國ニ於テハ第十九條及第二十條ニ基キテ之ヲ定メ不同盟國ノ料金ヲモ併セ課スヘシ

露國聖比得堡ニ於テ確定シタル條約書第十五條及第十六條ニ依リテ一千八百八十五年九月十七日各國理事官日耳曼國伯林ニ於テ此細目規則ヲ議決シ一千八百八十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

各國ヨリ此會議ニ列シタル理事官左ノ如シ

日本

石井忠亮

日耳曼

ドクトル、フオン、ステファアン

同

ハトク

同

シエフレル

同

フリツチ

同

ル、サーシユ

南濠太利亞

チャーレス、トッド

澳太利

ブルンネル

同

ウチルシツ

匈牙利

エル、ド、コオレル

白耳義

エフ、ドラルシエ

勃斯尼比耳日合維

バルマン

伯西爾

パロン、ド、カバネマ

勃爾牙利

エル、イワノフ

交趾

エル、チエウ、ウイ、エー

丁株

ホソク

同

ランド

埃及

エルネスト、アイスコッフ、フロワイエー

同

スカンダル、フアミー

西班牙

ウイ、コロミナ

佛蘭西

フリブール

同

エ、ロラン

大貌列顛

ウ、エツチ、ビ、ベチー

同

エツチ、シ、ファイシエル

同

ビー、ベントン

希臘

エム、ア、チエリ、ユツチ

英領印度

パトマン、シヤン、ペイン

同

ウ、エツチ、リー、イルツ

以太利

ダミコー

盧森堡

モンシユナ

蒙的尼古羅

ブルンネル

同

ウオルシツ

那威

シ、ニールセン

○第一類○行政法○電信條約書綱目別冊

那威	エフ、ブツジユ
新南威爾斯	イー、シー、クラクネル
荷蘭及蘭領印度	ホフステッド
葡萄牙	ギルヘルミン、アウグスト、ド、パロス
羅馬尼亞	コロネル、パスチア
同	シ、シヤコウエスコ
露西亞	エン、ド、ベサック
同	エ、ウツソフ
塞內牙爾	エル、シユウイウイエー
攝兒比亞	サン、ヨウノウイック
暹羅	プリスタン
瑞典	デ、ノルドランド
同	ヘルマン、ウツデンベルグ
瑞典	フレロ
多斯馬尼亞	セ、ヘンニツケル、ヒートン
突尼斯	エ、ロラン
土耳其	オハン、バグダリヤン

條約書第十五條并細目規則第十六條
乃至第二十條ノ條款執行ノ爲メ制定

電信萬國稅表

(稅表畧ス)

下名ノ同盟各國委員ハ聖比得堡制定條約書第十五條及十六條ニ基ツキ一
千八百八十五年九月十七日伯林ニ於テ此稅表ヲ決定シ一千八百八十六年
七月一日ヨリ實施スルコトヲ約定ス

日本	石井忠亮
日耳曼	ドクトル、フォン、ステファン
同	ハイク
同	シエフレル
同	フリッチ
同	ル、サーシユ
南濠太利亞	チヤイレステッド
澳大利	ブルンネル
同	ウチルシツ
匈牙利	エル、ド、コオレル
白耳義	エフ、ダラルシユ

勃斯尼比耳日合維
 伯西爾
 勃爾牙利
 交趾
 丁抹
 同
 埃及
 同
 西班牙
 佛蘭西
 同
 大貌列顛
 同
 希臘
 英領印度
 同
 バルマン
 シロンド、カバネマ
 エル、イウノフ
 エル、チユウイウイエー
 ホンク
 ルンド
 エルネスト、アイスコラフ、フロウイエー
 スカシタル、ラアミー
 ウイ、コロモナ
 ラリブートル
 ヌ、ロラン
 シ、エウチ、ビ、ベチー
 エウチ、シ、フィシエル
 ビー、ベントン
 エム、ア、チユリユツチ
 ハトマン、チヤンセイ
 シ、エウチ、リーイルツ

以太利
 盧森堡
 蒙的尼古羅
 同
 那威
 同
 新南威爾斯
 荷蘭及蘭領印度
 葡萄牙
 羅馬尼亞
 同
 露西亞
 同
 塞內牙爾
 攝兒比亞
 暹羅
 瑞典
 ダミコー
 モンシユナ
 ブルンネル
 ウオルシツ
 シ、ニイルセン
 エフ、ブツシユ
 イー、シー、クラクネル
 ホフステツト
 ギルヘルミン、アウグスト、ド、パロス
 コロネル、バスタア
 シ、シヤコウエスコ
 エン、ド、マサツク
 エ、ウツソーフ
 エル、シユウイウイエー
 サン、ヨウ、ノウイック
 プリスダン
 デ、ノルドランドル

○第一類○行政法○電信條約書綱目別冊

現行 日本法律規則大全四編下卷畢

同
 瑞西
 多斯馬尼亞
 突尼斯
 土耳其

ヘルマン・ウッテンベルク
 フレイ
 ゼンニツケル・ヒートン
 エロラン
 オハジ・バクダリヤン

明治二十年九月廿四日出版御届
 同 年十月 刻 成

定價金一圓六拾錢

編纂人

岐阜縣平民

高木 周次

大阪府下東區平野町二丁目廿番地寄留

出版人

大阪府平民

岡島 真七

大阪府下東區本町四丁目五十九番地

同

岡島 幸次郎

東區南久寶寺町四丁目九番地

發兌人

岡島 寶文館

全所

岡島 支店

東區備後町四丁目三番地

東 京 賣 捌 書 肆

日本橋通壹丁目 同 通二丁目 同 通壹丁目 同 通三丁目 銀座四丁目 日本橋西川岸 横山町三丁目 馬喰町貳丁目 神田通新石町 南傳馬町壹丁目 大門通元大坂町 京橋區南紺屋町 本町四丁目 日本橋通四丁目 三十間堀壹丁目 日本橋區橋町 南傳馬町三丁目 神田淡路町 木挽町壹丁目 日本橋長谷川町

北島茂兵衛 稻田佐兵衛 丸倉孫兵衛 博善書 須原鐵 辻屋文 石川兵衛 福田仙七 吉川半藏 小川喜右衛門 神戶甲子二 杉本七郎 春陽堂 九聲社 鶴成堂 松成堂 巖成堂 萬字堂 榮泉社

西 京 賣 捌 書 肆

東洞院三條上ル 河原町二條下ル 寺町通二條下ル 同所 寺町通御池下ル 寺町通三條上ル 同町 同町 三條通寺町東入 同 御寺町御池下ル 三條通寺町西入 三條通御幸町角 三條通富小路東入 寺町通四條上ル 寺町綾小路下ル 寺町通松原下ル 佛光寺烏丸東入 五條高倉西入 西六條花屋町

村上勘兵衛 大黒屋支店 梅原支店 河合支店 佐々木惣四郎 清水幾之助 細川清之助 竹岡文清 福源次郎 山中源次郎 山井源次郎 藤井孫兵衛 杉本甚兵衛 大谷仁兵衛 須磨勘兵衛 田中勘兵衛 川勝勘兵衛 內山勘兵衛 東山勘兵衛 小笠原彦太郎 永田長左衛門

各 縣 賣 捌 書 肆

尾州名古屋本町 同 本町三丁目 同 本町二丁目 同 本町七丁目 同 鐵砲町二丁目 同 稻置 信州長野善光寺 信州松本本町二 三州豐橋吳服町 駿州靜岡江川町 加州金澤上堤町 同 片町 同 小松京町 甲州甲府常盤町 越前福井錦上町 同 照手上町 勢州津大門町 同 松坂日野町 同 山田八日市町 同 四日市南町

片野東四郎 石瀨代助 小澤吉三郎 市橋文治郎 小橋平左衛門 高橋甚左衛門 高須廣衛門 廣瀨市造 近田太三郎 益智平三郎 宇都宮源平 內藤右衛門 溝江八男 岡崎左喜助 川島九右衛門 中島嘉助 有文嘉助 伊藤善太郎

各 縣 賣 捌 書 肆

濃州大垣岐阜町 同 岐阜米屋町 江州大津丸屋町 同 大津升屋町 同 大津京町二丁目 同 彦根土橋町 同 彦根西内大工町 同 長濱御堂前 同 八幡新町二丁目 和歌山本町二丁目 同 小野町二丁目 同 東長町五丁目 泉州堺神明町 同 甲斐町東一丁目 同 岸和田北町 同 播磨赤松 同 西ノ宮久保町 同 神戸元町五丁目 但馬豐岡香田町

岡浦源助 三浦宗次郎 澤川伊儀助 古川一治郎 澤田七治郎 廣田伍治郎 田中藤平 中村藤平 大井文幣助 大井文幣助 野田大左衛門 瀨戶吉左衛門 鈴木久三郎 鈴木久三郎 本庄三治郎 吉田三治郎 橋本常三郎 吉田常三郎 船井元三郎 由利政太郎

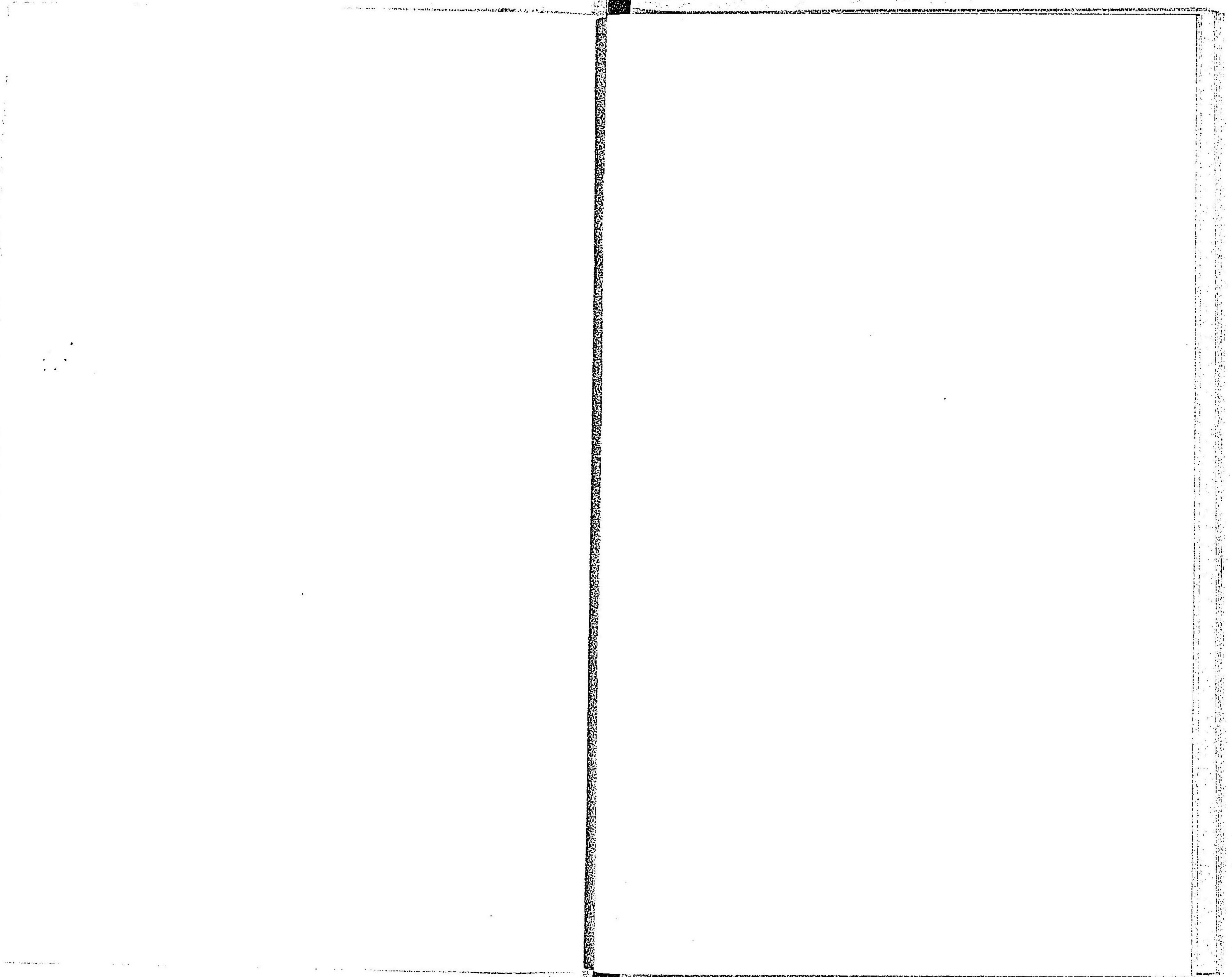
千十 B-22

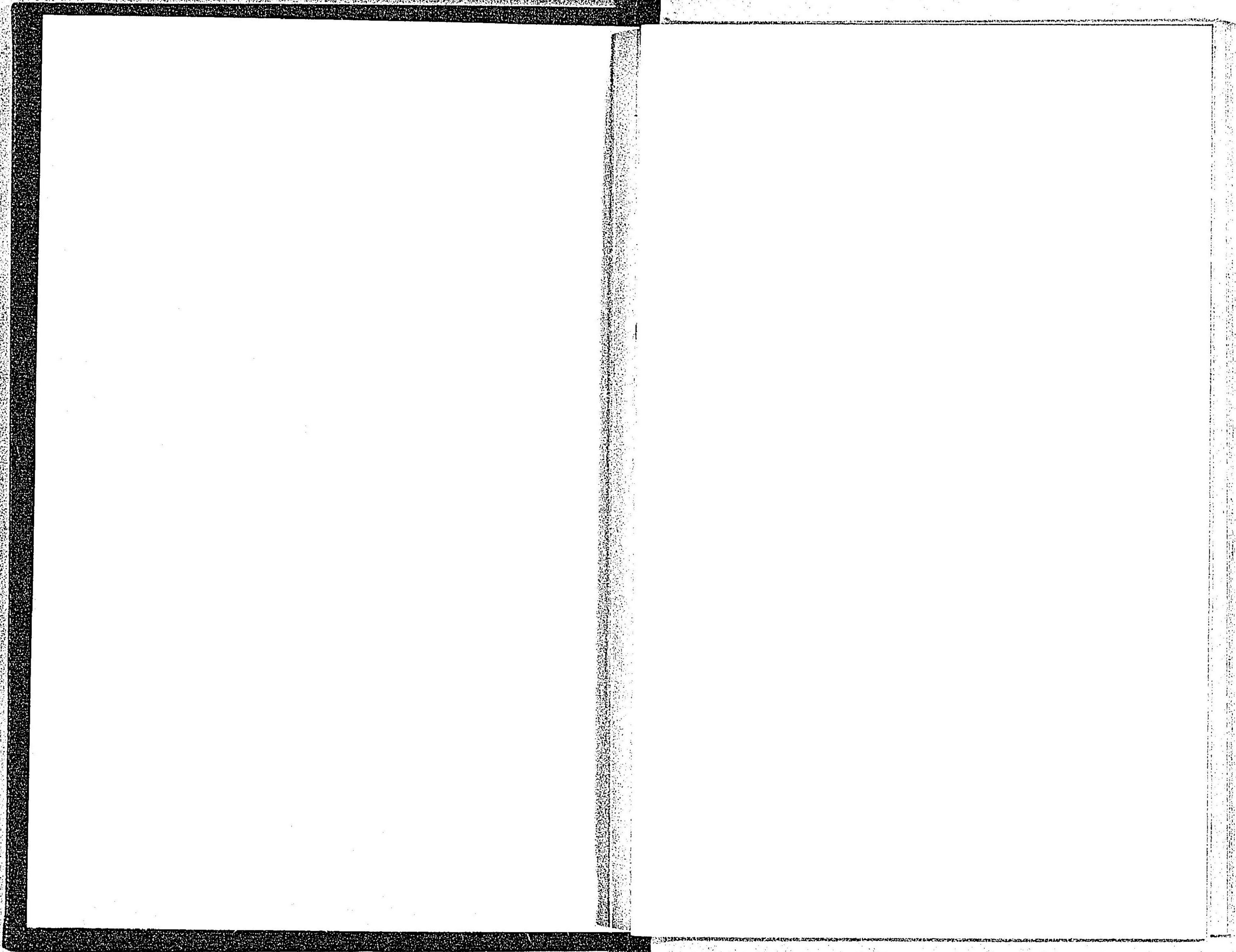
各縣賣捌書肆

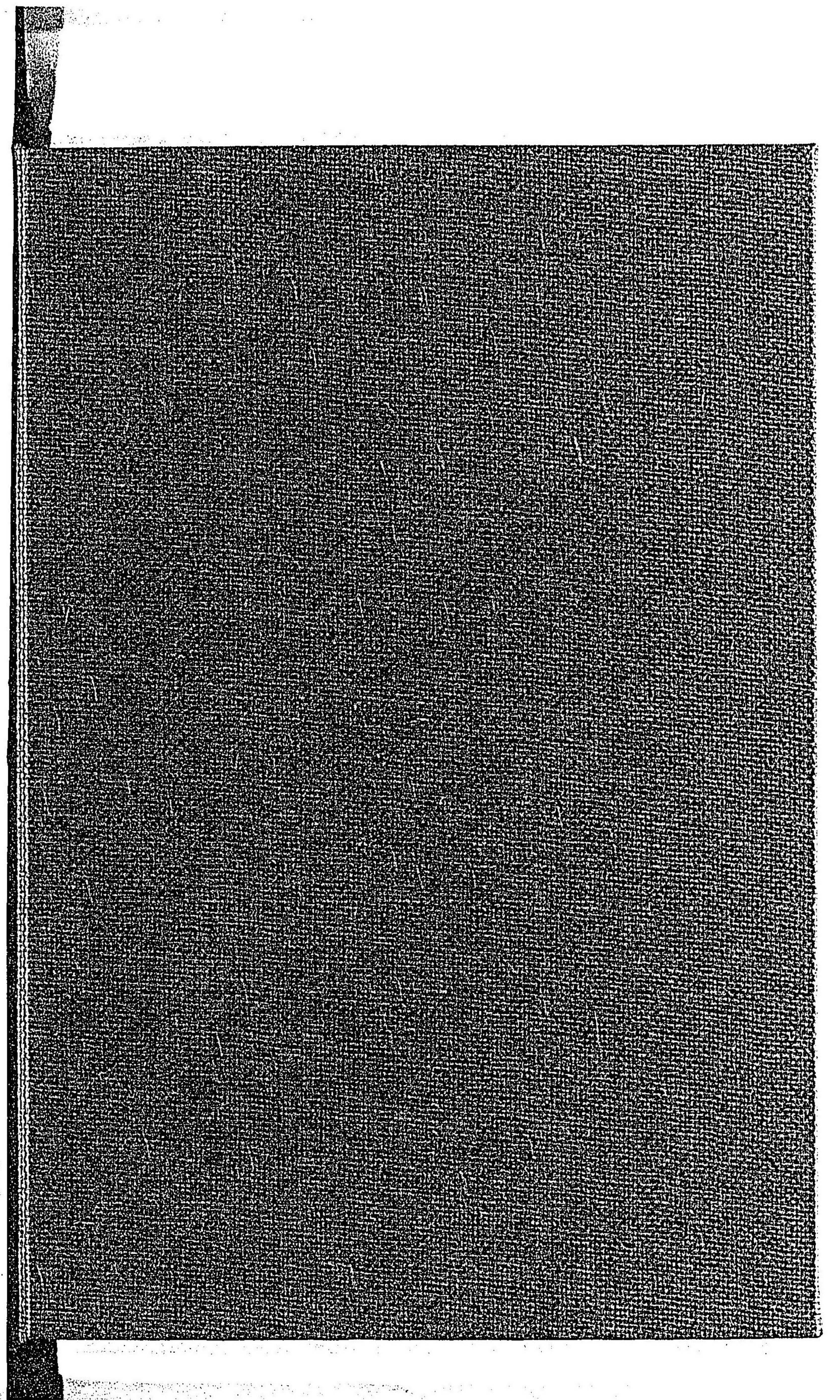
同 米田町	同 豐田郡觀音村	伊豫松山湊町	同 宇和島本町	備前岡山仲之町	備後尾ノ道土堂町	藝州廣島橫町	防州三田尻	同 山口中市町	同 大市町	同 中市町	長門豐浦中濱町	同 萩瓦町	同 馬關赤間町	肥州長崎酒屋町	同 佐賀新馬場	肥後熊本新二丁目	鹿兒島十日市町
山野長	本庄輔	龜友又	安藤國	玉井新	上田長	森田禎	三木半	西村虎	宮川臣	白原三	村谷三	松原三	西尾商	安中三	書籍會	長崎次	吉田兵
平	二	吉	藏	郎	藏	助	助	吉	助	平	郎	郎	衛	店	社	郎	衛

大阪賣捌書肆

心齋橋南一丁目	同北詰北入	同安堂寺町南へ入	同安堂寺町南へ入	同順慶町南へ入	同順慶町北へ入	同博勞町南へ入	同博勞町角	同南久寶寺町北入	同北久寶寺町角	同北久太郎町北入	同唐物町北へ入	同本町北へ入	同安土町南へ入	同備後町角	同備後町北へ入	同備後町東へ入	高麗橋三丁目	長堀橋南詰南へ入	天神橋通松屋町
松村九	駿中右	田太右	青木恒	兎屋支	此村庄	中川勤	岡田兵	前川茂	三木善	柳原喜	岡本仙	赤志忠	鹿岡靜	吉岡平	梅原龜	博聞分	熊谷幸	真部武	湯川孫
衛	堂	門	郎	店	助	助	衛	衛	助	助	助	助	助	助	社	助	助	衛	衛







禁電子式複写

